

北九州市立自然史・歴史博物館
(いのちのたび博物館)
年 報
令和7年度



夏の特別展「Bones 2 ほねほね運動会 ～はしる！とぶ！つかむ！～」

ごあいさつ

令和7(2025)年度は、当館の土台を、再度、固めることに主眼をおいた活動に重点を置きました。このうち、これまで明示できていなかった当館のミッション(使命)を策定したことは、重要な活動の一つであると考えています。これによって、当博物館をどのような場所にするのか、また社会に対しどのような役割をはたしていくべきなのかといった、今後の活動の方向性を職員で共有することができたと考えています。なお、この活動にあたっては、ボトムアップで、職員が一丸となって取り組みました。

令和8(2026)年度は、このミッションをより広く知っていただくための方策を実践するとともに、ミッションの下での基本的運営方針や中長期計画を構築したいと考えています。すなわち、土台のうねに創りあげる景観を確定させ、その景観を現実のものとするための具体的なプランを立案する予定です。

ただ、ミッションや中長期計画は創っただけでは意味がありません。個々の博物館活動の進展状況などを客観的に評価し、場合によっては実践手段や計画そのものを修正するといった、順応的管理が肝要です。このため、令和7(2025)年度は、博物館活動の自己評価や外部評価に係る評価項目の見直しなども、土台固めの一環として実施しました。まだまだ不完全なものではありますが、少しずつ改善していきたいと考えています。

新たに策定したミッションの下、地域にとってより必要とされる博物館となるよう、職員一同、力をあわせて活動を深化させてゆく所存です。当館の活動に対するますますのご支援やご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年7月

北九州市立自然史・歴史博物館長
真鍋 徹

北九州市立自然史・歴史博物館「理念と方向性」

〈理 念〉

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

〈方向性〉

知的アクセス権を保障する博物館…知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24 時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館…将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館…社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目 次

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館「理念と方向性」

ページ

1. 組織と運営体制	1
2. 博物館協議会	2
3. 博物館評価	5
4. 令和7年度予算	7
5. 施設概要	8
6. 沿革	9
7. 入館者の状況	13
8. 広報・報道実績	15
9. 特別展	16
10. 企画展	24
11. 短期展示・出張展示・展示替え	27
12. 重点事業	31
13. 教育普及活動	38
14. 社会貢献	44
15. ボランティア組織の活動	49
16. 博物館友の会の活動	51
17. 資料の収集保管状況	54
18. 資料の特別観覧状況	57
19. 資料の貸出状況	58
20. 画像等資料の貸出状況	60
21. 研究業績	64
22. 博物館刊行物	71

1. 組織と運営体制

(1) 令和7年度組織

※ 令和8年3月末時点



(2) 名誉館員

※ 括弧内は就任日

藤丸詔八郎 (2005. 4. 1)	戸来義臣 (2007. 4. 1)	税田昭徳 (2007. 4. 1)	藤井厚志 (2008. 4. 1)
岡崎美彦 (2010. 4. 1)	永尾正剛 (2011. 4. 1)	有川宜博 (2012. 3. 1)	上田恭一郎 (2013. 4. 1)
伊藤明夫 (2015. 4. 1)	山根明弘 (2016. 4. 1)	山家桂一 (2018. 4. 1)	藪本美孝 (2018. 4. 1)
下村通誉 (2018. 4. 1)	武石全慈 (2018. 4. 1)	馬場 稔 (2019. 4. 1)	松井和幸 (2019. 4. 1)
伊澤雅子 (2025. 4. 1)			

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員

任 期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

※ 委員は五十音順

会 長	阿部 芳久 ^{*,**}	九州大学大学院 比較社会文化研究院教授
副会長	杉山 未菜子 ^{*,**}	福岡市経済観光文化局博物館学芸課長／市史編さん室長
委 員	井上 龍子 ^{**}	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
	緒方 泉 ^{**}	九州産業大学地域共創学部特任教授／大学美術館長
	鬼本 佳代子	国立国際美術館学芸課教育普及室研究員
	佐野 文香 ^{***}	北九州市立大学学生
	須藤 朋美	九州工業大学大学院工学研究院助教
	立花 昭一	北九州市立浅川中学校長
	富田 幸光	国立科学博物館名誉研究員
	針尾 泰久	北九州市立中原小学校長
	舟橋 京子 ^{*,**}	九州大学大学院比較社会文化研究院准教授

* 博物館外部評価小委員会委員、** ミッション小委員会委員、*** 公募委員

(2) 博物館協議会

1) 開催状況

開催日時：令和7年9月2日(火) 13:30～16:00
開催場所：北九州市立自然史・歴史博物館 1階会議室
開催方法：対面

2) 協議内容と主な意見

令和6年度の事業実績について

- ・年報として分かりやすくまとめられている。

令和6年度の博物館評価について

【資料収集・保管活動】

- ・資料収集目標や評価基準が厳しすぎるのではないかと見直しを検討してはどうか。

【調査研究活動】

- ・科研費などの採択率よりも研究業績の数が重要ではないかと。
(回答) 定性的指標などを含め、業績の評価の見直しを検討する。

【展示活動】

- ・地方公立館でありながら他館への巡回展を行えた点を評価する。
(回答) これまで学芸員の研究内容を積極的に展示に盛り込んできた。そのことが評価されるようになった結果と考える。

- ・来館者数の評価基準は厳しすぎるのではないか。
- ・収蔵展示の実装を評価する。今後も進めてほしい。

【教育普及活動】

- ・少子化の影響を考えると、人数による評価は妥当なのか。団体数を評価指標にしてはどうか。
(回答) 少子化の影響は実感している。評価の見直しを検討する。
- ・参加者の理解度などの定性的指標が欠けている。出前授業や体験プログラムで学校側にアンケートなどを実施しているのか。
(回答) 評価の見直しを検討する。現在、アンケートは教員研修を除き実施していない。

【広報・情報発信活動】

- ・SNSについては児童や若年層に人気の媒体に注目することが必要である。ハッシュタグの使い方など、若い世代の意見を参考にしたい。

【市民との協働活動】

- ・20～40歳代のシーダーが少ない状況を変える工夫はあるか。
(回答) シーダーは60～80歳代が大多数であり、若年層に博物館そのものを知ってもらうことがまず必要と考えている。
- ・ボランティア活動の成果などの市民の貢献についても評価や記載があって良いのではないか。

【社会貢献活動】

- ・他館への貸出資料が増加しているが、デジタルアーカイブ化推進の影響はあると考えるか。
(回答) デジタルアーカイブ化を始めて日が浅く、効果はまだ認識できていない。
- ・定量的指標だけでなく、内容など定性的指標も必要ではないか。
(回答) 定性的指標を含めるなど、評価の見直しを検討する。

【その他】

- ・東田ミュージアムパークについては事業範囲を拡大する向きがあったが、採択事業終了に伴い改めて当地区に特化した活動に期待したい。

【博物館評価全般】

- ・目標値が厳しすぎるのではないか。館の規模、マネジメントやリソース配分、中長期計画との関係、少子高齢化等社会の変化も考慮するなど、評価基準を見直してはどうか。
(回答) 市政変革などもあり、館の活動自体も見直しを迫られている。それを踏まえた評価の見直しを進める。

令和7年度の事業計画について

- ・学校利用促進に関して、館の事業計画は年度当初に小中学校に伝わっていれば、当該年度カリキュラムに反映しやすいようである。
(回答) 年度当初の情報提供を心掛ける。

ミッションの策定について

- ・協議会委員にはコミュニケーションや宣伝の専門家がいない。それらを専門とする人物からもヒアリングなどを実施するのがよいのではないか。
(回答) ヒアリングも実施した上で、できるだけ多くの意見を受け止めた形で原案を作成したい。
- ・繰り返し相談を重ねて協議する必要がある。
(回答) 繰り返し協議を重ねる形を想定している。ミッションは一度決めて、その後まったく手を加えないという性質のものとは捉えておらず、今後も引き続きご相談をしたいと考えている。

その他

- ・「文化振興施策経営分析・事業分析報告書」には、展示替えを希望する利用者の声が掲載されている。これまで学芸員の最新研究紹介を短期展示で行ってきたようだが、それを今後も実施することが現実的な対応の一つと思う。
(回答) 来館者からは常設展が主体と捉えられている傾向を感じており、いただいた意見を参考に

常設展の展示替えなどを検討する。

- ・リソースが限られる中で、期間を定めて注力箇所を変えていく戦略は必要である。その観点から、ミッションは柔軟性のあるものとし、その中で短期・中期・長期目標を設定するなど、戦略的に決めておくのが良い。

(3) ミッション策定にかかる博物館長の諮問に対する答申

1) 開催状況

小委員会

開催日時：令和7年12月12日(金) 14:00～16:00

開催方法：オンライン

博物館協議会

【第一回】

開催日時：令和7年12月18日(木) 10:00～11:00

開催方法：オンライン

【第二回】

開催日時：令和8年3月18日(水)

開催方法：書面会議

※ミッション策定に関する答申案について書面にて可決された。答申は35ページを参照

2) 協議内容と主な意見

- ・一文が長いと感じるので、一般の人が読んだときにどうなのかが気になる。ミッション案も解説も二度三度読むとよくわかる。「育ちあい」という言葉の意味がわからない。
(回答)「育ちあい」という言葉には、お互いに成長していこうという意志を込めている。
- ・ミッションであれば、どのような社会的な役割や立ち位置を貫くのかということへの言及があっても良いように思う。
(回答) 学術論文などをとおして世界へ発信することや、それにより社会に関する様々な問いかけを行うことなどを含めている。
- ・「展示をとおして」、「あらゆる人をお迎えします」の言葉は、来る人のことしか考えていないように取られかねず、検討した方が良いのではないかと。
(回答) 言葉の意味は解説文で説明する。分かりやすくする工夫をしたい。
- ・ミッションは普遍的なことをひとつ掲げ、その下にビジョンとして「唯一無二」や地域貢献などを書き、その下に活動方針を書くというような、段階分けをした方が良い。
(回答)「ミッション・ビジョン・バリュー」の概念を参考に検討する。
- ・世界に発信したことがどのように北九州市に還元されるのか、北九州市のみへの還元で良いのか。
(回答)「知の探究に努めて世界に発信」は、地域に還元するだけでなく、国内外で我々の研究が貢献していると考えている。解説の中での説明を検討する。
- ・二つの文章に短くまとめようとしているが、違う文章にした方が分かりやすいのではないかと。二つ目の文章は複数に分けた方が理解しやすいのではないかと。
(回答) 前段・後段の二つの大きな要素でミッションを示したいという方針だった。解説についてはイラストを交えた概要版などの作成を検討する。

3. 博物館評価

1) 評価方法

評価項目

令和7年度の博物館活動について、資料収集・保管活動や調査研究活動などの常置7評価項目に加えて、「その他」として、北九州ミュージアムパーク創造事業と来館者目線での博物館運営の改善を評価項目として選定した。

評価基準

各評価項目は、A：大変良い、B：概ね良い、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価した。

評価に際しては、北九州市の目標管理制度を参考に、定量的な基準および定性的な実績を総合的に加味し、達成度が120%以上の場合をA、120～80%をB、80～40%をC、40%未満をDとした。

定量的指標と定性的指標を明示し、それぞれについて評価したうえで、総合評価を行った。

自己評価

各評価項目に係る活動を、博物館職員が上記の評価基準に則り評価した。

外部評価

博物館協議会委員から、同協議会会長を委員長とする3名の外部評価小委員会委員を選出した。これら3委員による外部評価小委員会において、博物館に対するヒアリングなどを行い、外部評価小委員会案を作成した。その後、博物館協議会において同案を審議し、必要に応じて修正を行い、外部評価を確定させた。

2) 令和6年度の評価

資料収集・保管活動	自己評価：B	外部評価：B
調査研究活動	自己評価：B	外部評価：B
展示活動	自己評価：B	外部評価：B
教育普及活動	自己評価：B	外部評価：A
広報・情報発信活動	自己評価：B	外部評価：B
市民との連携	自己評価：A	外部評価：A
社会貢献	自己評価：A	外部評価：A
その他*	自己評価：A	外部評価：A
総合評価	自己評価：B	外部評価：A

* 北九州ミュージアムパーク創造事業、来館者目線での博物館運営の改善

3) 総合評価に係る協議会での主な意見

全般について

- ・「全方位ががんばる」「永遠に高い実績を出し続ける」のではなく、評価項目の重点化や運営リソースの配分などのマネジメントや目標設定などによる博物館評価方法の見直しが必要ではないか。
- ・博物館の「理念と方向性」と、評価項目・評価指標の設定の間に、年次または中期の事業計画が設

定されているべきではないか。

資料収集・保管活動について

- ・タイプ標本など学術的価値が高い標本の受け入れが続いているのはこの博物館の強みだと思う。

調査研究活動について

- ・採択率の高低よりもどのような成果（論文出版など）を挙げたかが大事である。

展示活動について

- ・公立の博物館の展示が他の博物館に巡回することは珍しく、しかも3会場を巡回したのは画期的ではないかと思う。

教育普及活動について

- ・団体数は自助努力もあるが、少子化の影響もあり、団体入館者数は指標として有効か。

4. 令和7年度予算

1) 博物館の歳入と歳出

単位：千円

歳 入		歳 出	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金等)	165,166	企画展・特別展開催経費	71,275
博物館特別展使用料	17,164	資料整備・調査研究経費	8,843
博物館目的外使用料	1,360	教育普及経費	2,070
博物館貸付料	3,236	その他(博物館維持管理経費等)	706,549
その他(図録販売等、私用光熱費等)	35,345		
起債(工事関係)	424,600		
計	646,871	計	788,737

2) 博物館予算(歳出)の推移

単位：千円

年度	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467
備考			うち太陽光発電設備整備 32,000	うち太陽光発電設備整備 60,000	うち太陽光発電設備整備 108,000

年度	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23
予算額	441,058	424,070	387,868	372,731	392,184
備考					

年度	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28
予算額	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067
備考	うち博物館展示・施設等改修事業 300,000				

年度	平成 29	平成 30	令和 1	令和 2	令和 3
予算額	312,067	330,620	325,027	332,904	332,719
備考					

年度	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7
予算額	368,013	474,585	382,486	788,737
備考	うち開館 20 周年記念リニューアル事業 40,300	うち博物館外壁改修外工事 104,000	うち熱源改修工事関連 17,300 プレハブ冷凍庫関連 9,400	うち熱源改修工事関連 346,300 照明機器更新工事 62,200

5. 施設概要

1) 構造

鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造）地上3階

2) 各室面積

単位：㎡

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール（ぼけっとミュージアムを除く）	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム	253	生物系研究室（植物・昆虫）	29	副館長室	25
エンバイラマ館（リサーチゾーンを含む）	1,067	生物系研究室（動物・魚類）	29	事務室	163
自然発見館（バイオリウムを含む）	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示（カルチャーモールを含む）	1,755	燻蒸室（前室を含む）	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム（乳幼児対象）	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム（小学生対象）	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
情報部門	1,018	脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
ホール（オープンギャラリーを含む）	509	岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
ガイド館（倉庫2を含む）	386	昆虫標本処理室	30	管理人室	26
市民ライブラリー	45	動植物標本処理室	60	会議室S	30
探究部門	204	液浸標本処理室	30	会議室R	30
実習室	123	技工室	60	会議室X	49
講座室	81	整理室	60	外来市民研究室	37
収蔵部門	2,506	暗室（前室を含む）	26	サービス部門	463
荷解室	96	撮影室	41	ミュージアムショップ	156
一時保管室	64	電子顕微鏡室	40	休憩ルーム	206
組立室	52	コンピューター室	28	休憩デッキ	101
冷凍室・冷蔵室（前室を含む）	49	保存科学室	40	供用部門	5,171
地学系収蔵庫	202	薬品室・特殊薬品室	25		
液浸標本収蔵庫	221	シャワー室	6		
重量物収蔵庫	204	器材倉庫	14		
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫（金属器を含む）	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83			合計	17,011

6. 沿革

昭和 50(1975)年	8 月	北九州市立歴史博物館が小倉北区内に開館 (8/1) 【歴史】
昭和 51(1976)年	5 月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石ディプロミスタスが発掘される 【自然史】
昭和 53(1978)年	4 月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置 【自然史】
昭和 54(1979)年	1 月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7) 【自然史】
昭和 56(1981)年	5 月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの 2・3・4 階を仮施設として開館 (5/2) 【自然史】
昭和 58(1983)年	8 月	北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1) 【考古】
昭和 59(1984)年	9 月	北九州市と大連市の友好都市締結 5 周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆虫」展を開催 【自然史】
	12 月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ 【自然史】
平成 5(1993)年	4 月	考古博物館友の会発足 【考古】
平成 7(1995)年	5 月	展示解説ボランティア制度発足 【考古】
平成 8(1996)年	7 月	展示解説ボランティア制度発足 【自然史】
	10 月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授) が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の 4 館からなるシャイン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 11(1999)年	6 月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 13(2001)年	3 月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
平成 14(2002)年	11 月	北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3) 小野勇一館長が就任 (11/ 3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56 日間)
平成 15(2003)年	3 月	開館記念特別展「COME BACK ～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37 日間)
	4 月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44 日間 : 25,871 人)
	7 月	特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44 日間 : 79,687 人)
	9 月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25 日間 : 12,828 人)
	10 月	特別展「発掘された日本列島 2003」(10/26～11/30 : 36 日間 : 11,260 人)
	12 月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18 日間)
平成 16(2004)年	1 月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31 日間)
	3 月	企画展「博多祇園山笠展 ～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38 日間)
	4 月	特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31 日間 : 14,262 人)
	7 月	特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51 日間 : 50,712 人)
	10 月	企画展「～片山正信氏の版画に見る～ 昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87 日間)
	10 月	企画展「襦袢の世界 ～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52 日間)
平成 17(2005)年	1 月	特別展「古代都市誕生 ～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50 日間 : 11,590 人)
	3 月	特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51 日間 : 26,638 人)
	7 月	特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51 日間 : 76,623 人)
	10 月	入館者 100 万人達成 (10/26)
	11 月	特別展「大名細川家 ～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24 日間 : 3,739 人)
	12 月	特別展「恐竜博 2005 ～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99 日間 : 207,397 人)
平成 18(2006)年	4 月	企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28 : 30 日間)
	7 月	特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」(7/15～9/3 : 51 日間 : 76,008 人)
	9 月	企画展「アイヌ文様の美 ～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26 : 65 日間)
	12 月	特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展 ～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31 : 104 日間 : 63,811 人)
平成 19(2007)年	4 月	企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化 ～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6 : 22 日間)

	7月	開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展 ～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2:58日間:96,103人)
	10月	開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然 ～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11:31日間:2,580人)
	12月	特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11:52日間:18,658人)
平成20(2008)年	3月	入館者200万人達成(3/22) 企画展「開館5周年記念事業」5年間のあゆみ展(3/22～4/6:16日間)
	4月	企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11:23日間)
	7月	北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催 (7/19～9/21:65日間) 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31:51日間:56,360人)
	8月	北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5:65日間)
	10月	特別展「美しき九州の旅 ～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30:51日間:6,659人)
平成21(2009)年	1月	特別展「小倉のお殿さま ～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8:38日間:6,513人)
	3月	企画展「ひとと海のものがたり」(3/1～5/10:71日間)
	5月	企画展「自然史友の会って何? 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14:23日間)
	7月	特別展「恐竜ラボ2009 ～よみがえれ! 恐竜ワールド」(7/18～8/31:45日間:64,628人)
	9月	特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23:66日間:30,266人)
平成22(2010)年	1月	特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21:51日間:6,567人)
	2月	中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
	3月	特別展「どうぶつ大集合! 肉食系? 草食系? なにをたべているのかな?」(3/20～5/30:72日間:28,327人)
	4月	伊藤明夫館長が就任(4/1)
	7月	特別展「昆虫大接近! ～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5:51日間:71,641人)
	10月	特別展「禅寺広寿山の名宝 ～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28:51日間:4,881人)
	11月	仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
平成23(2011)年	1月	特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31:89日間:22,598人) 入館者300万人達成(1/15)
	2月	入館者300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13:3日間)
	4月	特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31:39日間:19,297人)
	7月	特別展「世界の両生類・爬虫類大集合!」(7/16～9/4:51日間:74,797人)
	10月	特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展/鉄道展 ～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11:66日間:11,493人)
	2月	特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25:4日間:11,158人)
平成24(2012)年	1月	特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12:42日間:4,559人)
	3月	特別展「アンモナイトのふしぎ ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6:58日間:25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間:6,857人)
	4月	博物館を市長事務部局(市民文化スポーツ局、現 都市ブランド創造局)の補助執行とする
	7月	特別展「対決! 恐竜展」(7/14～9/23:72日間:102,921人)
	10月	特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2:44日間:30,283人)
	11月	開館10周年記念行事(11/3～4)
	12月	リニューアル工事休館(12/3～3/22)
平成25(2013)年	3月	リニューアルオープン(3/23)
	4月	北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16:58日間:30,740人)
	7月	北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1:51日間:125,805人) 入館者400万人達成(7/25)
	9月	北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4:52日間:20,990人)

	12月	北九州市制 50 周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2～2/11 : 49 日間 : 24,852 人)
平成 26(2014)年	3月	特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1 : 79 日間 : 54,700 人) 年間入場者 60 万人超達成 (3/31 : 622,701 人、最多)
	7月	特別展「THE モンスター展 ～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23 : 67 日間 : 117,585 人)
	11月	特別展「メタルズ！ ～変容する金属の美～」(11/1～12/23 : 53 日間 : 11,448 人)
平成 27(2015)年	3月	特別展「地球からの贈り物 ～石の美と魅力～」(3/21～5/10 : 51 日間 : 26,182 人)
	4月	上田恭一郎館長が就任
	7月	入館者 500 万人達成 (7/4) 入館者 500 万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23 : 75 日間 : 102,123 人)
	10月	入館者 500 万人達成記念特別展「医は仁術 ～解体新書から IPS 細胞まで～」(10/10～1/11 : 90 日間 : 20,058 人)
平成 28(2016)年	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景 ～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28 : 37 日間 : 6,535 人)
	3月	特別展「ふしぎの教室 ～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15 : 58 日間 : 30,891 人)
	7月	特別展「恐竜博 2016」(7/9～9/4 : 58 日間 : 125,153 人)
	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27 : 58 日間 : 15,327 人)
	11月	第 1 回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11 : 29 日間) その後、中国大連市・旅順博物館、韓国・仁川広域市立博物館に巡回(旅順博物館 2017 年 1/10～2/5 : 9,365 人、仁川広域市立博物館 2017 年 2/14～3/19 : 8,727 人)
平成 29(2017)年	1月	特別展「発掘された日本列島 2016」(1/2～2/19 : 49 日間 : 10,826 人)
	3月	特別展「ホントはすごい！ どうぶつ展 ～飛ぶ！ 走る！ 泳ぐ！～」(3/18～5/14 : 58 日間 50,594 人)
	7月	開館 15 周年記念イベント第 1 弾 (7/14～9/3) 開館 15 周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3 : 51 日間 : 122,294 人) 入館者 600 万人達成 (7/27)
	10月	開館 15 周年記念イベント第 2 弾 (10/7～2/25) 開館 15 周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3 : 58 日間 : 11,436 人)
	12月	開館 15 周年記念特別展「アクア・キングダム ～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」(12/23～2/25 : 61 日間 : 37,227 人)
平成 30(2018)年	3月	特別展「Bones ～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13 : 58 日間 : 37,000 人)
	7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24 : 73 日間 : 119,141 人)
	10月	特別展「食のたび ～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9 : 51 日間 : 9,793 人) ※中国旅順博物館企画の第 2 回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活 ―中日韓の箸の文化」を拡大
	11月	東田ミュージアムパーク食の祭典 2018 (11/17～18)
	12月	特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」(12/22～2/11 : 48 日間 : 22,099 人)
平成 31(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの ～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12 : 58 日間 : 47,859 人)
令和元(2019)年	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16 : 66 日間 : 119,013 人) 入館者 700 万人達成 (7/10)
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅 ―彫り起こされた足跡と交流―」(10/12～12/1 : 51 日間 : 8,456 人)
	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11 : 49 日間 : 23,154 人)
令和 2(2020)年	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館 (2/28～5/18)
	4月	伊澤雅子館長が就任 (4/1)
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日限定開館 (5/19～5/29)、臨時休館 (5/30～6/21)
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館 (6/22～8/7)
	8月	Web 事前予約システム導入 (8/3～)
令和 3(2021)年	1月	特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」―戦国を生き抜いた武士の絆―」(1/2～2/14 : 44 日間 : 6,718 人)
	3月	特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです ―あつめる まもる つなげる―」(3/6～4/4 : 30 日間 : 17,503 人)
	4月	北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」(4/29～5/30、うち 5/12～5/30 新型コ

		コロナウィルス感染症拡大防止のため臨時休館：16,289 人)
	7 月	特別展「THE モンスター展 II」 (7/17～9/26：76 日間：57,731 人)
令和 4(2022) 年	10 月	特別展「鉄の都のものがたり ～釜石と八幡～」 (10/16～11/28：44 日間：6,845 人)
	1 月	特別展「博物館のお正月 2022 ～開館 20 周年 Year の幕開け～」 (1/2～1/31：30 日間)
	3 月	特別展「まるごとウマ展 ～ウマと人のキズナ～」 (3/19～5/8：51 日間：20,516 人)
	7 月	開館 20 周年記念特別展「昆虫博 2022」 (7/16～9/4：51 日間：81,554 人)
	10 月	開館 20 周年記念特別展「トイレのうんちく展」 (10/1～11/23：54 日間：27,193 人)
		入館者 800 万人達成 (10/19)
	11 月	開館 20 周年記念式典 (11/3)
	12 月	開館 20 周年記念特別展「うなぎの旅展」 (12/10～1/29：48 日間：10,788 人)
令和 5(2023) 年	2 月	リニューアル工事休館 (2/1～3/3)
	3 月	リニューアル開館 (3/3 記念式典、3/4)
		開館 20 周年記念特別展「世界の野生ネコ科展」 (3/4～5/7：65 日間：55,768 人)
	7 月	特別展「恋するいきもの展」 (7/15～9/18：66 日間：58,286 人)
	10 月	特別展「なつかしい暮らしと道具展」 (10/14～12/3：51 日間：26,006 人)
	12 月	リニューアル記念式典 (12/26)
		特別展「博物館のお正月 2024 ～辰～」 (12/26～12/28, 1/2～2/18：51 日間)
令和 6(2024) 年	3 月	特別展「カラーズ ～自然の色のふしぎ展～」 (3/16～5/6：52 日間：37,154 人)
	7 月	特別展「ゾクゾク発見！両生類・は虫類展」 (7/13～9/16：66 日間：107,649 人)
	10 月	特別展「お菓子のむかしばなし展 ～あまい！うまい！うつくしい！スイーツヒストリー～」 (10/12～12/8：58 日間：24,209 人)
令和 7(2025) 年	1 月	特別展「博物館のお正月 2025 ～お正月をさぐる～」 (1/2～2/2：32 日間)
	3 月	入館者 900 万人達成 (3/11)
		特別展「絵本でたどるいのちのふしぎ かこさとし×いのちのたび博物館」 (3/15～5/6：53 日間：26,603 人)
	4 月	真鍋徹館長が就任 (4/1)
	7 月	特別展「Bones 2 ほねほね運動会 ～はしる！とぶ！つかむ！～」 (7/19～9/23：67 日間：71,590 人)
	10 月	特別展「「べらぼう」におもしろい印刷展」 (10/11～12/7：58 日間：22,237 人)
令和 8(2026) 年	3 月	特別展「化石のふしぎ展 石になった生き物のヒミツ」 (3/20～5/10：52 日間：39,193 人)
		博物館のミッションを策定

7. 入館者の状況

1) 開館以降の年間入館者数と累計

単位：人

年度	大 人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年 計	累 計
平成 14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
平成 15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
平成 16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
平成 17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
平成 18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
平成 19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
平成 20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.1%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
平成 21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
平成 22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
平成 23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
平成 24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
平成 25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
平成 26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
平成 27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
平成 28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
平成 29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
平成 30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100.0%)	6,890,477
令和 1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27.0%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100.0%)	7,343,340
令和 2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100.0%)	7,481,076

年度	大 人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年 計	累 計
令和 3	114,885 (47.5%)	10,300 (4.3%)	53,034 (21.9%)	63,517 (26.3%)	241,736 (100.0%)	7,722,812
令和 4	185,101 (46.0%)	14,981 (3.7%)	99,650 (24.7%)	103,087 (25.6%)	402,819 (100.0%)	8,125,631
令和 5	202,696 (47.0%)	16,033 (3.7%)	114,470 (26.6%)	98,079 (22.7%)	431,278 (100.0%)	8,556,909
令和 6	221,496 (46.8%)	19,208 (4.1%)	125,125 (26.4%)	107,128 (22.7%)	472,957 (100.0%)	9,029,866
令和 7	208,872 (48.2%)	19,391 (4.5%)	115,845 (26.7%)	89,174 (20.6%)	433,282 (100.0%)	9,463,148

※ 展示リニューアル工事のため休館：平成 24 年度 12/3～3/22；令和 4 年度 2/1～3/2

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館等：令和元年度 2/28～3/31 休館；令和 2 年度 4/1～5/18 休館、5/19～5/29 平日限定開館、5/30～6/21 休館、6/22～8/7 平日限定開館；令和 3 年度 5/12～5/30 休館、8/10～9/12 は常設展のみ休

8. 広報・報道実績

1) 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数

9 件

2) 特別展等関連の広報・報道

展示会	新聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	インターネット
春の特別展（令和7年4月1日から5月6日まで） 絵本でたどるいのちのふしぎ	96 件	6 件	0 件	1 件	8 件
夏の特別展 Bones 2 ほねほね運動会 〜はしる！とぶ！つかむ！〜	189 件	12 件	326 件	64 件	13 件
秋の特別展 「べらぼう」におもしろい印刷展	86 件	18 件	1 件	2 件	8 件
春の特別展（令和8年3月31日まで） 化石のふしぎ展 石になった生き物のヒミツ	44 件	9 件	15 件	2 件	10 件
合 計	415 件	45 件	342 件	69 件	39 件

3) その他の広報・報道

	新聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	インターネット
特別展以外の広報・報道	4 紙 4 件	11 誌 12 件	2 社 6 件	—	39 社 47 件

※ 新聞：ヒメクロウミツバメの渡り経路解明に関する内容；雑誌等：月刊はかた、九州パパママ Wallker、船の旅；テレビ：タダイマ！（RKB 毎日放送）、ダーウィンが来た！（NHK）；インターネット：じゃらんニュース（株式会社リクルート）、九州旅ネット（九州観光機構）；子ども新聞（福岡版）、安全安心ガイドブック（福岡・北九州都市圏版）

4) ホームページ

トップページアクセス数	全ページアクセス数	更新件数
536,863 回	1,244,675 回	110 件

5) SNS

令和8年4月2日現在

	アカウント名	投稿件数	フォロワー数
X（旧 Twitter）	北九州市立いのちのたび博物館	338	11,326
Facebook	北九州市立いのちのたび博物館	305	4,232
Instagram	北九州市立いのちのたび博物館【公式】	293	5,288
YouTube	北九州市立いのちのたび博物館	4	905

9. 特別展

(1) 絵本でたどるいのちのふしぎ かこさとし×いのちのたび博物館

期 間：令和7年3月15日(土)～令和7年5月6日(火・振)
53日間（前年度からの継続事業）
会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
入 場 料：大人700円（団体560円）、高・大生500円（同400円）、
小・中生400円（同320円）、未就学児無料
観覧者数：26,603人（全期間、令和7年4月1日以降は16,725人）
担当学芸員：森 康、日比野友亮
主 催：北九州市立自然史・歴史博物館
後 援：福岡県教育委員会
特別協力：毎日新聞社、九州朝日放送
協 力：加古総合研究所、福音館書店



概 要

国民的絵本作家かこさとし（加古里子）氏の科学絵本と、当館所蔵の標本約200点をあわせて展示し、身近な自然や生物の進化への関心と理解を深めてもらう特別展である。かこ氏の作品から、『かわ』、『海』、『地球』、『宇宙』、『人間』の連作を取り上げ、その延長線上に位置づけられる遺作『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』の複製を西日本初公開した。

展示の前半（『かわ』から『宇宙』まで）は自然の空間的な広がり、後半（『人間』および『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』）は生命の時間的な繋がりがテーマになっている。全体として、かこ氏が絵本に込めた「未来を生きる子どもたちに、その手がかりとなるこの世界の地図を手渡す」という想いを感じられるよう構成した。例えば、『人間』では第9場面「地球の生物の歴史」を幅約6メートルに拡大して床面に貼り、その上を歩いて生物の進化をたどる展示を行った。生前、かこ氏が展示会のたびに提案し、しかし一度も行われなかった企画が本展で実現した。

主な展示資料

1. オープンギャラリー：『ノラネコの研究』（伊澤雅子・文／平出衛・絵）などの科学絵本を、関連する標本とともに展示したほか、絵本を読めるコーナーや映像を使ったアイキャッチを設置した。
2. かこさとしさんの絵本：かこ氏の絵本デビュー作『だむのおじさんたち』をはじめ、福音館書店から出版された作品の原画14点（複製、全国初公開3点）のほか、かこ氏が使った筆記具1式（実物）、『ダムのおじさんたち』執筆のための資料1点（実物、全国初公開）を展示した。
3. 『かわ』：表紙をのぞく全13場面の原画（複製）を、アユやカワセミなどの標本とともに展示し、水辺の生き物や川にまつわる人々の暮らしについて解説した。全場面同時展示は全国2度目である。
4. 『海』：未使用の絵1点（実物）を展示したほか、登場するクロマグロやカツオなどの生き物の標本を展示した。また、貝殻を耳に当てて「海の音」を聞く体験コーナーを設置した。
5. 『地球』：下絵6点（実物、全国初公開3点）を、対応するページのパネルとともに展示して比較できるようにし、関連する標本としてエベレスト山頂直下で採集された石灰岩などを展示した。
6. 『宇宙』：原画（複製）3点を展示した。
7. 『人間』：原画10点（実物、全国初公開1点）を展示した。また、「世界最古の岩石」アカスタ片麻岩、ストロマトライト、古生代・中生代・新生代の動植物の化石、軟体動物や種子植物といった分類群を代表する動植物の標本を展示し、生物の進化をたどる体験型コーナーを設置した。
8. 『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』：ビッグバンから現在までの物質と生物の進化を描いた大作

(幅約5メートル、高さ約1.5メートル)。かこ氏が約40年にわたり描き続けた遺作である。実物は移動や展示に耐えない状態のため、精緻な複製を展示した。

関連事業

関連イベントとして、北九州市消防音楽隊によるコンサートを含むナイトミュージアム(3月22日)、おはなしボランティア「すぎのこ」によるおはなし会(3月27日、4月1日)、学芸員によるギャラリートーク(3月25日、4月3日)を行った。また、学芸員による体験イベントを不定期に行った。

来場者の反応(有効回答数236件)

アンケートでは、回答者の47%が小学生であり圧倒的多数を占めた。理解度は、よくできた59%、できた28%、ふつう10%、できなかった2%、全くできなかった1%であった。満足度は、とてもおもしろかった71%、おもしろかった20%、ふつう8%、おもしろくなかった1%であり、全くおもしろくなかったと回答した人はいなかった。

自由意見では、「大好きな加古さんの展示が博物館で見られると思いませんでした。大きなパネルでみれてとても嬉しかったです」(未就学児保護者)、「たのしかったです。加古さんが書いた絵がすごかった」(小学生)、「だるまちゃんとかてんぐちゃんの作家としてしか知らなかったもので、今回の展示でこのように壮大なテーマに取り組まれていた方だと初めて知りました。『人間』の絵本、実際に手にとって読んでみます」(40代)、「原画の持つ力に引き込まれました。科学的知識を踏まえた絵本に感銘を受けました」(50代)など、好意的な意見を多数いただいた。



『かわ』原画と水辺の生きものの標本



『地球』下絵と岩石などの標本



『人間』原画と化石や生物の標本



『宇宙進化地球生命変遷放散総合図譜』

(森 康)

(2) Bones 2 ほねほね運動会 ～はしる！とぶ！つかむ！～

期 間：令和7年7月19日(土)～令和7年9月23日(火・祝)
67日間
会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
入 場 料：大人500円(団体400円)、高・大生300円(同240円)、
小・中生200円(同160円)、未就学児無料
観覧者数：71,590人
担当学芸員：中西 希、大橋智之
主 催：令和7年度夏の特別展実行委員会(北九州市立自然史・
歴史博物館、毎日新聞社、RKB毎日放送)
後 援：福岡県教育委員会
協 賛：ZENRIN
協 力：内村航平(北九州市スポーツ大使)、北九州市立東郷中学校、
国立科学博物館、武豊(日本中央競馬会)、(公財)東京動物園協会 多摩動物公園、
日本中央競馬会、毎日メディアサービス・サンデー新聞



概 要

平成30年春に開催した「Bones～骨、ほね、ホネ～」の続編として、脊椎動物の体を支える骨の形と機能の関係性にスポットを当て、生息環境への適応により様々な形に進化した「骨」について紹介した。やさしい言葉を用いたパネルを設置し、小さな子どもも楽しめる展示を目指した。

1. 導入：ジャイアントパンダの剥製と骨格を用い、竹を掴む仕組みから骨の面白さを紹介した。
2. ほねのきほん：動物の体を支える骨の名前をトラの交連骨格と人体骨格模型を用いて紹介し、骨の構造や成長について解説した。
3. はしる・あるく：走ることに特化したウマと騎乗するヒトの骨格標本をアイキャッチに用い、様々な動物の足の骨と歩行様式について紹介した。交連骨格と剥製を展示することによって、動物の外見と骨格の関係を可視化に努めた。
4. つかむ・とぶ：木にぶらさがる、滑空する、飛ぶなど、様々な役割をもつ前肢の骨の形をオランウータンやムササビなどの交連骨格を用いて紹介した。ヒトと動物を比較する観点から、空中でのヒトの姿勢と骨格を体操選手の内村航平氏に監修していただいた人体骨格模型で解説した。
5. 化石になった骨：長い年月を経て化石となった骨について、1個の骨から部位や種を調べる方法を解説した。肉食恐竜デイクスが草食恐竜テノントサウルスを襲うダイナミックなシーンを再現した骨格標本を展示し、骨から食性を知ることができることを紹介した。
6. 水の中に棲む動物たち：イリエワニやザトウクジラ、ピラルクなどの骨格を展示し、水の中に棲む動物の骨について解説した。
7. たべる：様々な歯を持ち食性が多様化した哺乳類の頭骨を多数展示し、その形が多様性について紹介した。来館者が近い距離で観察できるように壁面展示を活用した。
8. 君にもつくれる骨格標本：骨格標本は家庭でも作ることができることを作製の際に注意することも含めて紹介した。中学生が作製したアライグマの交連骨格は多くの関心を得ていた。

主な展示資料

日本に初めて来たジャイアントパンダ「カンカン」の剥製((公財)東京動物園協会 多摩動物公園所蔵)、内村航平氏(北九州市スポーツ大使)監修の人体骨格模型、武豊氏(日本中央競馬会)監修のウマ(サラブレッド)に騎乗するヒトの骨格レプリカ「人馬一体」、別府湾に迷い込んだザトウクジラの骨格

関連事業

- ・ナイト・ミュージアム：7月26日(土)、8月23日(土)
- ・体験講座「身近な食べ物から骨の形を知ってみよう」：8月3日(日)、9月13日(土)
- ・講演会「みんなでつくろう骨格標本」：9月6日(土)
西澤真樹子氏（なにわホネホネ団 団長・大阪市立自然史博物館外来研究員）

来場者の反応（有効回答数 968 件）

アンケートでは特別展の内容について4問、来館のきっかけや来館者の属性などについて9問の計13問に968件の回答を得た。

- ・理解度「特別展を見て骨のかたちとはたらきについて理解できましたか？」
できた 66.1%、すこしできた 28.1%、どちらともいえない 2.9%、あまりできなかった 2.0%、できなかった 0.9%：理解できたという回答が合わせて94.2%であった。
- ・満足度「特別展は満足いただけましたか？」
満足 81.3%、やや満足 14.5%、どちらともいえない 2.2%、やや不満 0.9%、不満 1.0%：満足したという回答が合わせて95.8%であった。



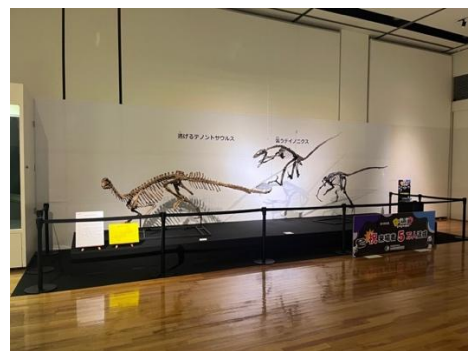
「カンカン」剥製と右腕交連骨格



カエル類交連骨格



「鳥人」内村航平氏監修人体骨格模型



デイノニクスとテノントサウルス



ザトウクジラ骨格頭骨壁面展示



頭骨壁面展示

（中西 希）

(3) 「べらぼう」におもしろい印刷展

期 間：令和7年10月11日(土)～令和7年12月7日(日)

58日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人700円(団体560円)、高・大生500円(同400円)、
小・中生400円(同320円)、未就学児無料

観覧者数：22,237人

担当学芸員：富岡優子、守友 隆、日比野利信

主 催：令和7年度秋の特別展実行委員会(北九州市立自然史・歴史博物館、毎日新聞社)

後 援：福岡県教育委員会

協 力：印刷博物館、小城市、小城市立歴史資料館、北九州市立中央図書館、北九州市立美術館、九州大学医学図書館、九州大学中央図書館、公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団、廣澤寺、佐賀県立名護屋城博物館、三岳寺、下関市立歴史博物館、福岡市博物館、毎日新聞九州センター、山口県文書館、山口県立山口図書館、山口県立山口博物館、落楽一座



概 要

本展は日本の印刷史を概観しながらも、特に江戸時代に焦点をあて、印刷・出版文化のおもしろさを紹介するものであった。会期中、修学旅行団体が多いことから、小学六年生の社会科の教科書と連動する展示や解説を意識し、子どもたちの学習に繋がるようにした。

1. オープンギャラリーを使用した導入展示：寺子屋を模した建物内で江戸後期・明治初年に出版された原物の版本に触れ、庶民の着物を着る体験ができるコーナーを設け、浮世絵を題材にしたトリックアートを作り撮影スポットとし、体感できる展示を目指した。
2. 第1章「印刷のはじまり」：商業出版が活発化する江戸時代以前の印刷を紹介した。印刷・出版が寺社を中心に展開したこと、大名・大内氏の出版が突出していたこと、徳川家康に従った肥前の閑室元佑と当時の活版印刷(古活版)などに言及した。
3. 第2章「出版ビジネスの誕生」：江戸時代の商業出版に着目し、庶民の間で大流行した浮世絵版画の展開や制作手法、ならびに版元・蔦屋重三郎の出版、蔦重の店で働き人気作家になった滝沢馬琴、馬琴作品の筆工を行った小倉藩士中川金兵衛(谷金川)などにスポットを当てた。
4. 第3章「花開く江戸カルチャー」：出版物からみる豊かな江戸の文化について紹介した。学びのための教科書や蘭学・国学・漢学などの書籍、ならびに当時の人々の娯楽であった歌舞伎や相撲、また旅などに関する浮世絵版画を展示した。
5. 第4章「ニュースの時代」：災害や事件などを伝えるメディアのひとつとなった瓦版を取り上げた。大火事や大地震、幕末のペリー来航や長州戦争・戊辰戦争などを題材にした瓦版・浮世絵版画、明治維新や文明開化の様相を描いた浮世絵版画などを展示した。
6. 第5章「変わりゆく印刷」：新聞と紙幣を題材にして、近代以降、現在に至るまでの印刷の変化や発展について紹介した。

主な展示資料

- ・百万塔陀羅尼(北九州市立中央図書館蔵) ※世界最古の印刷物
- ・北尾重政・勝川春章『青樓美人合姿鏡』(九州大学中央図書館蔵) ※蔦屋重三郎が手掛けた絵本
- ・滝沢馬琴『南総里見八犬伝』(九州大学中央図書館蔵) ※全106冊展示
- ・溪斎英泉『當世好物八契 里見八犬伝』(北九州市立美術館蔵)
- ・杉田玄白『解体新書』(九州大学医学図書館蔵)

- ・歌川広重『東海道五拾三次之内』（福岡市博物館・当館蔵）※全点展示（復刻版含む）
- ・「蒙古退散大かぶりの図」（山口県立山口博物館蔵）※元治元年の下関戦争を描いた多色刷瓦版
- ・『四季の草花』（印刷博物館蔵）※世界最小の印刷本

関連事業

- ・担当学芸員のギャラリートーク：10月12日(日)、11月30日(日)
- ・江戸時代の版本を触ってみよう：10月19日(日)、11月22日(土)
- ・ハロウィンナイトミュージアム：10月26日(日)
- ・べらぼうたちの落語会：11月2日(日) 落楽一座(顧見亭小客、夢追家みち介、満福亭たなぼた)、目留変亭えくぼ(ゲスト)、菊亭山葵(前説)
- ・講演会「蔦屋重三郎と江戸の版元たち」：11月2日(日) 日野原健司(太田記念美術館 主席学芸員)
- ・博物館×美術館連携企画 浮世絵ギャラリートツアー：11月15日(土)
- ・和綴じのオリジナルノートをつくろう：11月29日(土)
- ・コスプレナイトミュージアム：11月29日(土)

来場者の反応（有効回答数 184 件）

- ・特別展の満足度は満足 76.6%、やや満足 19.0%、どちらともいえない 2.7%、やや不満 1.1%、不満 0.5%と総じて満足度は高かった。展示の理解度は、よくできた 65.8%、できた 28.8%、ふつう 5.4%であった。
- ・来場者の年齢層は 40 代 13%、50 代 9%、60 代 10%、70 代以上が 26%と 40 代以上が半数を超えた。NHK 大河ドラマの視聴層であったと考えられ、大河ドラマとの関連を述べる意見も多かった。
- ・展示解説の形態について、文字が小さい、見えないという否定的な意見が寄せられた。今後の解説文字の大きさや読みやすさに考慮する必要がある。また音声ガイドが欲しいとの意見もあった。
- ・図録や解説パンフレットが欲しかったとの要望があった。
- ・導入展示とした版本に触れる体験コーナー、また各種イベントなどに好意的な意見が寄せられた。



体験コーナー（寺子屋）



葛屋重三郎の出版



歌川広重「東海道五拾三次之内」の展示



『解体新書』の展示

(4) 化石のふしぎ展 石になった生き物のヒミツ

期 間：令和8年3月20日(金・祝)～令和8年5月10日(日)
52日間(次年度への継続事業)
会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー
入 場 料：大人700円(団体560円)、高・大生500円(同400円)、
小・中生400円(同320円)、未就学児無料
観覧者数：39,193人(全期間、令和8年3月31日までは11,511人)
担当学芸員：御前明洋、竹下文雄
主 催：北九州市立自然史・歴史博物館
後 援：福岡県教育委員会
特別協力：毎日新聞社
協 力：永広昌之(東北大学総合学術博物館)、田中源吾(熊本大学)、
広渡俊哉(九州大学)



概 要

次の10個のコーナーを設け、化石について様々な視点から解説を行った。

1. [化石とは]：どのようなものを化石と呼ぶのか、どれだけ古いと化石になるのかなど、化石の基本について解説した。また、各時代の様々な化石や復元模型を紹介した。
2. [化石が保存される特別な環境]：コハクの中や、石灰岩地域の割れ目・洞窟など、化石が保存される特別な環境について紹介した。
3. [化石を保存する地層中の“タイムカプセル”：コンクリーション]：保存状態の良い化石を含むコンクリーションについて、多くの標本を元に解説を行った。
4. [化石の調査とクリーニング]：標本や道具、動画、写真を用い化石の調査について解説した。
5. [化石の色]：化石の色に注目し、元々の模様が残されている化石や、黄鉄鉱の形成により金色をしている化石などを紹介した。
6. [奇跡的に保存状態の良い化石を含む地層：「化石鉱脈」]：「化石鉱脈」として知られる特に保存状態の良い化石が保存された産地の化石を紹介した。
7. [“生きている化石”]：現生標本と化石標本を用いて“生きている化石”として知られる生物について紹介した。
8. [生痕化石]：生物の足跡や糞などが残された生痕化石について解説を行った。
9. [化石から分かること]：過去の大陸の配置や、環境、生物間相互作用などを知るヒントとなる化石について解説を行った。
10. [身近なところにある化石]：九州、山口県産の化石や石材に含まれる化石について紹介した。

主な展示資料

チラシ・ポスターでは展示点数約800点としたが、最終的には1200点を超えた(ラベル数は約900)。見どころとして、オープンギャラリーに、巨大絶滅生物4種の実物大復元模型を展示した。また、北海道産のコンクリーションから採集され2023年に報告された白亜紀の巨大なイカの上顎化石や、2025年に報告された二次的に蓋の役割を持っていたと考えられる下顎を伴うアンモナイトの化石を初公開した。なお、標本を借用することなく、当館所蔵標本と寄託標本のみで展示を構成した。

関連事業

ナイトミュージアム2回(令和7年度中は1回)、化石発掘体験2回(令和7年度中は1回)を開催した。また、開催前日の令和8年3月19日にモニター参加者への展示解説を行った。



会場入り口の様子



巨大な古生物の実物大復元模型



ハンズオン展示（左下）と古生代中生代の化石



コンクリーションや調査の様子の展示



北海道のコンクリーションに含まれる化石
(様々なアンモナイトや、巨大なイカの化石)



生きている化石や化石鉱脈の展示



生物同士の関係を記録した化石等の展示



観覧者がゆり絵を貼るコーナー

(御前明洋)

10. 企画展

(1) 堀切辰一生誕 100 年記念 襤褸 - 布の記憶 -

期 間：令和 7 年 4 月 12 日(土)～令和 7 年 7 月 6 日(日)

会 場：ぽけっとミュージアム No. 9・10

観 覧 料：常設展入場料

担当学芸員：上野晶子

概 要

庶民生活史研究家である堀切辰一氏(1925～2019)は、庶民が用いた衣類・布類を収集し、そのコレクションを「襤褸(らんる)」と名付けた。収集したコレクションを約 40 年にわたり博物館へ提供するとともに、各資料に詳しい解説を付す作業を最晩年まで続け、布を通して庶民の生活実態を探究するという独自の研究分野を開拓した。

本展は堀切辰一氏生誕 100 年を記念し、著書『布の記憶』で取り上げた晴着やはんてんなどの庶民が用いた布を通して、布の仕立てや使用痕などから、庶民の暮らしぶりや心情を読み取り、後世に伝えようとした堀切氏の研究を紹介したものである。



展示構成・展示資料

1. 堀切辰一と襤褸
木綿地寄せ縫い沖ぼた
2. お宮参りの晴着
綸子地裾模様祝着、木綿地一つ身宮参り用祝着、木綿地一つ身祝着、木綿地袷着物
3. 腰巻とおむつ
木綿地おむつ、麻地腰巻、木綿地寄せ縫い腰巻
4. 布の声に耳を傾ける
堀切辰一氏著書(『襤褸達の遍歴』『布の記憶』『布のいのち』『布が語る戦争』)
5. 庶民たちのはんてん
木綿地印袴纏、木綿地野良着、木綿地袴纏
6. 眠る布団と寝る布団
木綿地継ぎ当て縫い布団表、縮緬地夜着
7. 堀切辰一と戦争
木綿地手拭、巻脚絆、巻脚絆



ぽけっとミュージアム No. 9 展示風景



堀切辰一氏の著書

(上野晶子)

(2) おもちゃでタイムトラベル 昭和 50 年

期 間：令和 7 年 7 月 19 日(土)～令和 7 年 11 月 3 日(月・祝)

会 場：ぽけっとミュージアム No.9・10・11

観 覧 料：常設展入場料

担当学芸員：日比野利信、宮元香織

主 催：北九州市立自然史・歴史博物館

特別協力：駄菓子屋の夢博物館、毎日新聞西部本社、松永文庫

概 要

「昭和 100 年」の真ん中の年・昭和 50 年（1975）頃、日本は第 1 次オイルショックで不況に突入、高度経済成長の終了が意識され、低成長の時代に移るなど、日本社会の大きな転換期で、現代社会を考えるうえで重要な意味を持つ時期である。

本展は昭和 50 年前後、1970 年代に焦点を当て、カラーテレビが普及してテレビ黄金時代を迎えたこと、自家用車が普及してモータリゼーションが急速に進行したことなどに注目して、時代を映す鏡であるおもちゃを集めて、現代と比較しながら、その時代を体感的に振り返った。

おもちゃの展示ということで、夏休み期間を中心に賑わい、多くの来館者に楽しんでいただいた。特にゲームウォッチやスロットカーレーシングなどの体験は人気だったが、故障等も多く、そのメンテナンスに多大な手間を要した。

おもちゃの選定・陳列方法や展示解説が不徹底で、「時代を映す鏡」であるおもちゃや関係資料をとおして、時代を浮き彫りにし、体感的に振り返っていただくという所期の目的を十分に達成することはできなかった。

展示構成

1. 「テレビ黄金時代」コーナー：テレビキャラクターのおもちゃなど
2. 室内ゲームの登場と子どもの遊び：ボードゲームや初期のコンピューターゲームなど
3. 車の時代とスーパーカーブーム：スーパーカー関連や乗り物のおもちゃ

主な展示資料

1. 豊後高田市「駄菓子屋の夢博物館」小宮裕宣館長（本市出身）の膨大なおもちゃコレクション
2. 様々なゲーム、プラレールやレーシングカーなどの体験
3. 毎日新聞西部本社の特別協力による昭和 50 年の新聞記事や、松永文庫の特別協力による昭和 50 年の映画資料



ぽけっとミュージアムNo. 9 展示風景



ぽけっとミュージアムNo. 10 展示風景

(日比野利信)

(3) 調べる・くらべる 暮らしと道具のうつりかわり

期 間：令和7年11月15日(土)～令和8年4月19日(日)

会 場：ぽけっとミュージアム No.9・10

観 覧 料：常設展入場料

担当学芸員：上野晶子

概 要

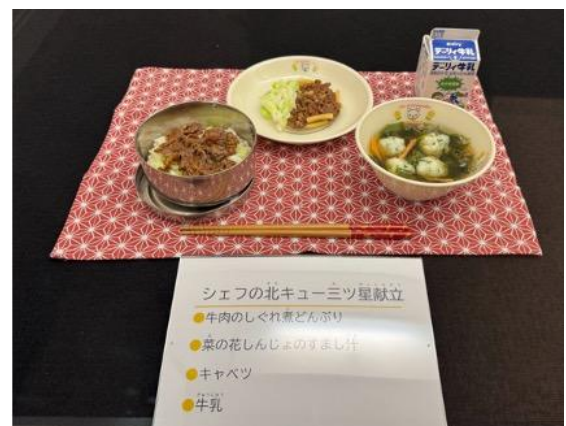
小学校3年生の社会科単元「わたしたちの市の歩み」のうち「かわる道具と暮らし」は、子ども達の身の回りにある道具をきっかけに、昔使われていた道具やその時代の暮らしについて調べ、道具や暮らしのうつりかわりについて考えるものである。

ぽけっとミュージアム No.9 では身近な衣食住に関する道具類を、現在使われているものから少しずつ時代をさかのぼって展示する手法を取った。子ども達の家にもある道具を起点にすることで、展示に興味を持たせ、昔の道具の形やデザインの変化などに注目しながら、それぞれの道具を比較し、当時の暮らしについて考える機会を提供した。また、ぽけっとミュージアム No.10 では明治時代から平成時代までの給食のうつりかわりを展示するとともに、近年の北九州市の給食の内容や段階食の取り組みについて紹介した。



展示構成・展示資料

- 炊飯器のうつりかわり
IH ジャー炊飯器、マイコンジャー炊飯器、電気炊飯器 (電気釜)、電子ジャー、羽釜、飯びつ (おひつ)、飯びつ入れ
- アイロンのうつりかわり
コードレス電気アイロン、電気アイロン (昭和50年代・昭和30年代)、炭火アイロン、火のし
- 電話のうつりかわり
ファックス付き電話機、プッシュホン、自動式卓上電話機、デルビル式壁掛電話機、デルビル磁石式卓上電話機
- テレビのうつりかわり
薄型テレビ、ブラウン管テレビ (平成前期、昭和40年代)、白黒テレビ
- 洗濯機のうつりかわり
全自動洗濯機、二槽式洗濯機、攪拌式洗濯機、たらい・洗濯板
- 給食のうつりかわり
平成20年～明治22年の給食、シェフの北キュー三ツ星献立、ワールドツアー献立、北九州市レシコンクール献立、脱脂粉乳、牛乳容器、段階食



(上野晶子)

11. 短期展示・出張展示・展示替え

(1) クリスマス展示

期 間：令和7年12月3日(水)～令和7年12月25日(木)
会 場：恐竜デッキ、オープンギャラリー
観 覧 料：常設展入場料、12月17日から無料
担当学芸員：中西 希



概 要

12月のクリスマスシーズンに合わせ、サンタクロースがプレゼントを配る際に乗るといわれる、トナカイの剥製が引くそりを展示した。来館者はそりに乗って記念撮影ができるようにした。当初は恐竜デッキに展示していたが、12月17日からはオープンギャラリーに移設。ミュージアムショップが展示するクリスマスツリーと共に館内のクリスマスムードを華やかに演出した。

(中西 希)

(2) ヒメクロウミツバメの渡り経路に関する

研究紹介展示

期 間：令和7年12月9日(火)～令和8年1月31日(土)
会 場：エントランス付近
観 覧 料：無料
担当学芸員：中原 亨



概 要

世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産の一つである小屋島で繁殖する希少海鳥ヒメクロウミツバメの渡り経路を世界で初めて明らかにし、論文がオンライン掲載されたことを受けて、特別展示を行った。海伝いに最大で16,500 km以上移動し、インド洋のアラビア海まで到達する壮大な渡りを行っていたことや、越冬期にはアラビア海を広く利用していたことなどを示す研究概要をパネルで紹介したほか、ヒメクロウミツバメの剥製と、追跡に使用したジオロケーターの実物を展示した。

(中原 亨)

(3) 山田緑地魚類化石発見50周年展示

期 間：令和7年12月16日(火)～次年度へ継続
会 場：ディプロミスタスぽけっとミュージアム
観 覧 料：常設展入場料
担当学芸員：大橋智之



概 要

今年度が山田弾薬庫跡地（現在の山田緑地入口周辺）で魚類化石が見つかって 50 年目だったことから、それを記念して展示を行った。北九州市内で最初に見つかった白亜紀魚類化石、山田緑地での魚類化石発見の経緯、その後の発掘調査、自然史博物館設立の経緯などの解説と、山田緑地で最初期に発見された魚類化石の一つなど当時の貴重な化石を特別に展示した。

（大橋智之）

（４）干支展示

期 間：令和 7 年 12 月 25 日（木）～令和 8 年 1 月 9 日（金）

会 場：オープンギャラリー

観 覧 料：無料

担当学芸員：中西 希



概 要

令和 8 年は午年にちなみ、当館所蔵に所蔵するウマの剥製の中からサラブレッド、木曽馬、ポニーの 3 点を展示した。これら 3 品種は、それぞれの特定の目的のため作りだされたもので、木曽馬は日本在来馬のうちのひとつである。古くから続くウマと人間の関係や、多様な品種が作られたこと、さらに日本へのウマの伝来時期とその用途について解説するパネルを設置した。

（中西 希）

（５）シオマネキの既知識別能力実証に関する 研究紹介展示

期 間：令和 8 年 2 月 19 日（木）～令和 8 年 3 月 22 日（日）

会 場：博物館エントランス付近

観 覧 料：無料

担当学芸員：竹下文雄



概 要

オキナワハクセンシオマネキは南西諸島から東南アジアの干潟に生息する小型のカニ類であり、巣穴を拠点にその周辺をなわばりとして活動する。当館および北海道大学との共同研究により、本種が近隣に巣穴を持つ同種他個体を、以前から知る既知个体か、見知らぬ未知个体かを区別することを実証した。本研究が国際誌にオンライン掲載され、それに伴い実施したプレスリリースのタイミングに合わせて、研究内容の解説とオキナワハクセンシオマネキの剥製を展示した。

（竹下文雄）

(6) イオンモール八幡東店 出張展示

期 間：令和7年7月16日(水)～令和7年9月11日(木)
会 場：イオンモール八幡東店3階通路
観 覧 料：無料
担当学芸員：大橋智之、中西 希、宮元香織



概 要

イオンモール八幡東店協力のもと、当館の夏の特別展「Bones2 ほねほね運動会」と企画展「おもちゃでタイムトラベル 昭和50年」のPR展示を実施した。特別展と企画展に関連する標本・資料の展示の他、ティラノサウルス頭骨レプリカを今年も展示した。また、スペース LABO の企画展のポスターも設置し、東田地区の連携強化にも努めた。

(大橋智之)

(7) 出張展示「山田緑地の自然を考えてみよう」

期 間：令和7年10月29日(水)～令和7年11月24日(月・祝)
会 場：山田緑地森の家
入 場 料：無料
担当学芸員：真鍋 徹・蓑島悠介・中原 亨・中西 希



概 要

常緑広葉樹がうっそうと繁る山田緑地の森も、かつては里山の林などとして人による利用がなされていたことを知ってもらうため、山田緑地の自然環境の現在の姿や過去からの移り変わりを、当館による調査結果や当館が収集した実物標本などを用いて紹介した。

展示に際しては、容易に持ち運びができる移動用展示ケースを開発するとともに、環境への負荷の低減も意識しポリスチレン製の素材を用いない解説手法を用いた。なお、本展示は JSPS 科研費 JP22K01026 の助成によって実施した。

(真鍋 徹)

(8) ヒストリーアートギャラリー展示替え

公 開 日：令和7年4月23日(水)、令和7年6月23日(月)、令和7年9月18日(木)、令和7年12月18日(木)、令和8年2月19日(木)
会 場：カルチャーモール
観 覧 料：常設展入場料
担当学芸員：歴史課全員



概 要

ヒストリーアートギャラリーは歴史ゾーンのカルチャーモールに令和5年度に新設された展示コーナーである。日本の美術工芸品や北九州市域周辺の伝統工芸品など多彩な美を楽しんでいただくことを目的としている。本年度は四季や季節の行事に応じた展示となるよう、5回展示替えを行った。具

体的には、端午の節句前後には陣羽織・打刀拵、正月には羽子板、桃の節句前後には雛人形、また四季に応じた堀切辰一コレクションの着物などを展示した。

(守友 隆)

(9) バイオリウム展示替え

期 間：令和7年12月4日(木)～

会 場：自然発見館

観 覧 料：常設展入場料

担当学芸員：日比野友亮



概 要

令和6年度まではアメリカウナギを飼育していたが、飼育個体が死亡したため、NPO法人北九州魚部から提供を受けた大分県産のオオウナギを搬入し、馴致後展示を開始した。本種は熱帯・亜熱帯性であるが、九州では福岡県を除くすべての県で報告されている。写真は昼寝中の様子。

(日比野友亮)

12. 重点事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館（以下「仁川博」）、友好都市の中国・大連市の旅順博物館（以下「旅順博」）と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣や展示交流などを継続的に実施している。

今年度は当館が開催館となり、8月7日に実務者会議を行った。12月4日に館長会議を開催する予定であったが、旅順博が欠席したため、当館と仁川博の2館で館長会議に代わる意見交換会を行った。

実務者会議では、前年度のシンポジウム（海神信仰）について、旅順博から結果報告が行われた。また、第3期（2022～2027年度）に実施予定の合同研究会（テーマ：博物館の教育普及活動）に関する細部合意書の内容について合意した。つづいて、合同研究会に向けて事前報告が行われた。

館長会議に代わる意見交換会では、来年の合同研究会（成年を対象とする教育普及活動）及び第4期交流事業の方向性を話題として取り上げた。3館長による細部合意書への署名は、郵送にて行うこととした。合同研究会は、下記のとおり報告を予定し、3ヶ国語の要旨集を作成した。ただし、旅順博が不参加のため、当館と仁川博との意見交換会を実施した。学校の授業との連携（北九州）や、幼児向けのプログラム（仁川博）など、相互に参考になる知見が得られた。

- ・「北九州市立自然史・歴史博物館の「昔の道具・くらし体験」プログラムの課題と対策」
- ・「仁川広域市立博物館の幼児・子供教育運営について」
- ・「旅順博物館の未成年者向け教育普及活動の状況紹介」

また、来年の合同研究会での報告に向けて、下記の調査を実施した。

- ・モニタリング調査「博物館を知る活動（歴史）」

実施日：令和7年7月29日、8月5日、8月19日、11月23日

参加者：20代の方5名

内容：博物館資料の取り扱い実習やミニ企画展「これ、なーんだ？—君ならどう使う？—」

（8月20日～3月31日まで公開）の企画立案、展示作業、博物館への期待や利用促進の工夫についての聞取調査及びアンケート調査

- ・博物館のイベント企画・運営などのボランティア活動を行っている学生団体に対する聞取調査
名古屋市博物館／MARO（名古屋市立大学公認団体）、明治大学博物館／学生広報アンバサダー、新潟市歴史博物館／高校生ボランティア

成年を対象としたモニタリング調査及び先行事例調査は令和8年度も継続して実施予定である。
なお、本事業には、公益財団法人カメイ社会教育振興財団からの助成をいただいた。



意見交換会の様子



モニターによるミニ企画展

（上野晶子・佐藤凌成）

(2) ナイトミュージアム

1) 特別展関連イベントとしてのナイトミュージアム (5 回、総参加者 4,707 人)

各回で異なる演出を行うことにより、リピーターの方も楽しむことができるなど、より多くの方にご来館いただけるよう工夫を行いながらナイトミュージアムを開催した。

展覧会	開催日	内 容	人数
夏の特別展	7 月 26 日(土)	アースモールで光と音楽の演出を実施した。	406
	8 月 23 日(土)	アースモールで光と音楽の演出を実施した。	775
秋の特別展	10 月 26 日(日)	館内をハロウィンにちなんだ装飾を行うとともに、一部の来館者や職員も仮装を行った。アースモールで当館オリジナルストーリー「学びの演出」のほか、光と音楽の演出や写真コンテストも実施した。	768
	11 月 29 日(土)	博物館とポップカルチャー（コスプレ）という異文化のナイトミュージアムを開催。10～20 代の若い層の参加が非常に多いものとなった。写真コンテストを実施し、90 点以上の応募があった。	475
春の特別展	3 月 21 日(土)	アースモールで光と音楽の演出を実施した。	2,283



スピノサウルス Courtesy of The University of Chicago

2) クリスマスナイトミュージアム (1 回、参加者 1,061 人)

12 月 20 日(土)、当館では特別展を開催していない時期に初めてナイトミュージアムを実施した。当館オリジナルストーリー「学びの演出」のほか、大学生によるハンドベルコンサートや男性ディオ「RefRise (リフライズ)」のコンサートを行った。

オープンギャラリーには、トナカイのはく製とクリスマスツリーを展示し他ところ、かなり多くの来館者が写真を撮るなど新たな写真スポットとなった。



(3) ミッション策定

1) 策定に至った経緯など

北九州市では、少子高齢化や経済成長の停滞など社会情勢が厳しくなる中で、行財政運営のあり方を変革する「市政変革」の取組みが進められている。

文化施設においては、有識者による令和6年度の市政変革会議（X会議）において、「ユーザー目線を踏まえた現場改善」や「施設運営のあり方」について議論されてきた。その結果、昨年5月、文化振興施策経営分析・事業分析報告書が公表され、その中で、「施設運営のあり方」について、民間活力等の導入方法を検討する施設変革案とスケジュールが示された。

当館については、高い集客力と良質な社会教育機能が両立されていることから直営を継続することとされたが、令和7年度中にミッションの再確認を行うこととされた。

博物館には開館時に策定した「理念と基本方針」はあるが、ミッション自体は存在しないため、ミッションを作成することとなった。ミッション作成にあたっては、館長のリーダーシップのもと、館長が講師となる研修会の開催や館長が推薦した図書等を参考に各々がミッションについて勉強するなど、十分な準備をして作成に臨んだ。

2) 策定までのプロセス

回	開催日	内 容
—	令和7年8月7日(木)	全職員を対象にした館長によるミッション研修会
—	令和7年9月29日(月)	全職員によるミッションの案出し
ワーキンググループ 1	令和7年10月3日(金)	ミッション作成ワーキンググループの設置（課長以下） 全職員から提出されたミッション案について検討
ワーキンググループ 2	令和7年10月10日(金)	WGメンバーによるミッション案の提示
ワーキンググループ 3	令和7年10月16日(木)	ミッション案の作成
検討会議 1	令和7年10月21日(火)	ミッション作成検討会議の設置（館長含む） WGで作成したミッション案の概要説明
検討会議 2	令和7年10月24日(金)	ミッション策定における基本方針について検討 ミッションに取り込みたい要素について検討
検討会議 3	令和7年10月29日(水)	ミッション策定における基本方針の決定 ミッションに取り込みたい要素の決定
検討会議 4	令和7年11月5日(水)	ミッション案の検討
検討会議 5	令和7年11月14日(金)	ミッション案の検討
検討会議 6	令和7年11月19日(水)	ミッション案の検討
検討会議 7	令和7年11月21日(金)	ミッション案の検討 ミッション解説案の検討
検討会議 8	令和7年11月27日(木)	ミッション案の決定 ミッション解説案の検討
検討会議 9	令和7年12月2日(火)	ミッション解説案の決定
博物館協議会 1	令和7年12月12日(金)	博物館協議会小委員会
博物館協議会 2	令和7年12月18日(木)	博物館協議会

回	開催日	内 容
検討会議 10	令和 8 年 1 月 23 日 (金)	ミッション案の再検討 ミッション解説案の再検討
博物館協議会 3	令和 8 年 3 月 18 日 (水)	博物館協議会より答申
検討会議 11	令和 8 年 3 月 31 日 (火)	ミッションの決定 ミッション解説案の決定

令和8年3月18日

北九州市立自然史・歴史博物館長
真鍋 徹 様

北九州市立自然史・歴史博物館協議会
会長 阿部 芳久

ミッションの策定について（答申）

博物館長から諮問がありました標記の件について、下記の意見を踏まえてミッションを策定されるよう答申します。

記

1. 評価できる点

- (1) イギリスの博物館で活用されているマニフェスト6項目をすべて網羅している。
- (2) いのちのたび博物館の展示内容をよく表しており、わかりやすいミッションとなっている。
- (3) 学芸員と事務方が一緒になってやっていることは非常に意味がある。揺るぎないものをつくるという方向性が明確になっていることは良いことである。
- (4) 他の博物館と比較し、いのちのたび博物館が「唯一無二」な存在だという部分は理解しやすい。

2. 意見や提言など

- (1) 一つの文章が長く感じる。言葉や文書構造を整理する、複数に分ける、難しい言葉には用語解説を入れるなど、見せ方を工夫してもらいたい。
- (2) 「展示をとおして」とあるが、博物館の活動は展示だけではないので、市民との活動も含めた文言を工夫してもらいたい。
- (3) 「あらゆる人をお迎えします」とあるが、これからの博物館として利用者を迎えるだけで良いのか、検討してもらいたい。
- (4) 「貴重な遺産を集める」とあるが、博物館は誰もが貴重だと認識されているものだけを集めて次世代へ引き継ぐわけではないので、誤解を与えないように工夫してもらいたい。
- (5) 「遺産」という文言を使うのであれば、解説で詳しく説明した方が良いと思われる。
- (6) 博物館が自分たちの活動の届け先である社会、あるいは地球や世界をどのように捉えているか、社会的な役割や立ち位置を貫くのかということへの言及があっても良いと思われる。
- (7) ミッションは普遍的なことを一つ掲げ、その下にビジョン、更にその下に活動方針を書くなどを検討してもらいたい。
- (8) 世界に発信したことを、どのように北九州市に還元するのか説明が必要と思われる。

ミッション

地球の成りたちや生命の誕生と進化、人びとの歩みを壮大なスケールと体感できる展示をもって表現し、過去と現在から未来へつなぐ「いのちのたび」に、あらゆる人をお迎えします。

さらに、かけがえのない遺産を集めて次世代へ引き継ぎ、知の探究に努めて世界へと発信し、あわせて皆さんと共に学び、育ちあい、愉しみと感動を分かちあえる「唯一無二」の博物館を目指します。

わたしたちの想い（ミッションの解説）

私たちのミッションは、前段と後段の2つの段落で構成されています。

前段は、「北九州市立自然史・歴史博物館」の存在意義と特長を表し、後段は今後の私たちが進むべき方向性を示します。

全体を通じて、私たちの博物館が目指すべき姿はどのようなものなのか、その想いと決意を示したものです。

地球の成りたちや生命の誕生と進化、人びとの歩みを壮大なスケールと体感できる展示をもって表現し、過去と現在から未来へつなぐ「いのちのたび」に、あらゆる人をお迎えします。

「地球の成り立ちや生命の誕生と進化」は、地球の形成から始まり、古生代、中生代、新生代から現在までの生命の進化のみならず、自然の変遷も意味します。

「人びとの歩み」は、北九州地域の歴史や文化をはじめ、連々と続く過去からの人びとの営みを意味します。

「壮大なスケールと体感できる展示をもって表現し」は、奥行100mのアースモールという「壮大なスケール」の展示、恐竜が生きていた太古の北九州を再現したエンバイラマ館をはじめ、弥生時代の復元住居や明治時代の再現民家など、「体感できる」展示の数々が当館の特長であり、存在意義であることを意味しています。

また、展示の目的や意図を分かりやすく伝えるだけでなく、来館者が自ら感じとれる展示を目指します。

「過去と現在から未来へつなぐ」は、このような展示などから「過去」に学び、「現在」を知り、「未来」を創造するきっかけをつくるという思いを込め、これらをつないで自然と人間の関わり合いを考えることができる、自然史と歴史が融合した総合博物館としての意義を意味しています。

「いのちのたび」は、このような地球の誕生から、そこに生まれた生命が、まるで「果てしのない旅」をしているという思いを込めています。

「あらゆる人をお迎えします」は、国籍、年齢、性別、障害の有無のほか、居住地、言語、来館経験の有無などに関係なく、開かれた博物館を目指すという意図を込めています。

また、多くの博物館では静かに観覧すべきと思われていますが、私たちは、あらゆる来館者の驚喜の声や創造的な会話などが許される情緒を深めていきます。

さらに、心のこもった対応、快適な環境、充実した時間を提供し、何度でも訪れたい博物館を目指します。

さらに、かけがえのない遺産を集めて次世代へ引き継ぎ、知の探究に努めて世界へと発信し、あわせて皆さんと共に学び、育ちあい、ゆしみと感動を分かちあえる「唯一無二」の博物館を目指します。

「かけがえのない遺産を集めて次の世代に引き継ぎ」は、地球と人の歴史をとおして生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた、かけがえのない有形・無形の遺産について、私たちの責務のひとつである、収集して保管し、研究して展示する、永続的な取組みを意味しています。

また、「遺産」とは、通常、人が生前に所有していた財産のことを指しますが、近年は「世界遺産」や「自然遺産」、「文化遺産」という言葉が普及してきました。この「遺産」については、日本ユネスコ協会連盟が「世界遺産」として定義する、「地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれ、そして私たちが未来の世代に引き継いでいくべきかけがえのない宝物」という意味で使用しています。

「知の探究に努めて世界へ発信し」は、私たちの責務のひとつである、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学など、多様な分野にわたる調査や研究に努め、研究機能を重要視していることを意味しています。

また、博物館が担うべき社会的な役割として、研究成果を学術論文などとして世界へ向けて発信し、地域へ還元して北九州市に貢献するとともに、博物館どうしの連携・協力、教育、まちづくり、観光、福祉など、様々な分野の「世界」と協動することによって、私たちが地域の拠点となり、多様な価値を発揮します。

「皆さん」は、来館者はもとより、地域の皆さん、博物館を支える市民団体や友の会の皆さん、ボランティアであるシーダーなど、博物館に関わる全ての方々を意味しています。

「共に学び、育ちあい」は、「皆さん」と共に生涯にわたり、博物館を知的好奇心や探求心を持ち続けることができる交流の場として、私たちも学び、お互いに成長していこうとする意志を込めています。

「ゆしみと感動を分かちあえる唯一無二の博物館を目指します」は、私たちならではの取り組みを創造し、心が満ち足りるようなゆしみと、言葉では言い表せないほどの感動を、皆さんと分かちあうように努力していくことを意味しています。

また、他と比べることができない、その存在自体が放つ独自の魅力や影響力を持つ、必要不可欠な存在になるという決意表明です。

加えて、唯一無二の博物館を作り上げることによって、インクルーシブな社会への実現や知的な活動が根付いた地域の形成など、新たな取り組みにも挑戦していきます。

(田平直幸)

13. 教育普及事業

(1) セカンドスクール事業

1) 概要

博物館が第2の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、学校教育現場と博物館との連携強化を進めている。

博物館への誘致事業

- ・学校や修学旅行を手配する旅行会社へのPR・セールス活動
- ・小学校・中学校向けの情報誌を年間8回発行（幼稚園・保育園は年1回）

学校教育支援事業

- ・ガイドブック、体験活動プログラム資料など、博物館活用資料の整備
- ・化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくりなど、体験学習プログラムの実施
- ・小学校への出前授業、教材（ディスカバリーボックス）の貸出など、授業づくり支援
- ・環境アクティブ・ラーニングの実施、未来へのとびらオンライン授業への協力
- ・職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ（詳細は44～45ページを参照）

家庭教育支援事業

- ・子どもスクール（連続講座）や募集型普及講座の実施
- ・ワークショップイベントなどへの参加

2) 令和7年度実績

博物館への誘致事業（福岡県は市内小学校、他県は旅行社）

誘致先	福岡県	熊本県	広島県	長崎県	佐賀県	愛媛県	山口県	その他	合 計
訪問件数	24	19	13	11	11	8	7	31	124

学校教育支援事業（学校等団体）

団 体	保育園・幼稚園	小学校	中学校	高等学校・大学	特別支援学校	合 計
団体数	197	535	78	44	42	896
人 数	8,398	35,260	7,056	2,373	890	53,977

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合 計
学校数	6	1	8	7	0	0	22
人 数	279	57	396	285	0	0	1,017

授 業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境アクティブ・ラーニング	合 計
学校数	27	24	24	75
人 数	1,034	1,410	1,371	3,815

オンライン授業

【未来へのとびらオンライン授業】

日 時：令和7年7月11日(金)

参加者：みらいのとびら参加者 中学生 75名

対応者：中原学芸員・MT・市教委5名

内 容：アースモール～生命多様性館の展示解説（鳥類についての解説）、収蔵庫にある標本についての解説

参加者の感想（抜粋）

- ・先生や友達といっしょに学習を楽しめた；「いのちのたび博物館」に実際に行ったことがある；鳥類の種類や進化について、すごさやおもしろさを感じた；鳥の体のつくりについて、オスとメスや種類による違いを知れた；クイズを楽しみながら、自分なりにチャレンジできた。



【ちょこっと博物館 ①】

日 時：令和8年1月30日(金)

参加者：北九州市立河内小学校3年 1クラス

対応者：MT

内 容：小学3年「昔の道具について」、企画展「調べる・くらべる、地域とくらしと道具のうつりかわり」

【ちょこっと博物館 ②】

日 時：令和8年2月12日(木)

参加者：北九州市立寿山小学校3年 2クラス

対応者：MT

内 容：小学3年「昔の道具について」、企画展「調べる・くらべる、地域とくらしと道具のうつりかわり」

【ちょこっと博物館 ③】

日 時：令和8年2月27日(金)

参加者：北九州市立永犬丸小学校3年 3クラス

対応者：MT

内 容：小学3年「昔の道具について」、企画展「調べる・くらべる、地域とくらしと道具のうつりかわり」

教材(ディスカバリーボックス)貸出

8 件

教材セット	化石レプリカ作成	岩石簡易偏光	化石標本①	化石標本②	合 計
貸出点数	5	3	6	3	17

家庭教育支援事業（一般団体：市民センター、学童保育クラブ、子ども会など）

来館団体数：528 団体

来館人数：延べ 13,987 人

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合 計
団体数	4	0	1	2	0	0	7
人 数	62	0	13	29	0	0	104

東田ミュージアムパーク子どもスクール

開催回数：22 回（前期 11 回、後期 11 回）

参加者数：延べ 352 人（前期 16 人×11 回、後期 16 人×11 回）

【前期】

講座名	担当学芸員	開催日	参加者数
開講式 アンモナイトとオウムガイの観察	いのちのたび博物館 御前係長(自然史)	5 月 10 日(土)	16
LABO でフシギ体験&プラネタリウム鑑賞	スペース LABO 本館	5 月 24 日(土)	16
天気のおくみなぜ、雨は降る？	タカミヤ環境ミュージアム	6 月 7 日(土)	16
英語でサイエンス	KGG (英語村)	6 月 21 日(土)	16
顕微鏡で小さな化石を見てみよう	いのちのたび博物館 太田学芸員(自然史)	7 月 5 日(土)	16
英語で SDGs	KGG (英語村)	7 月 19 日(土)	16
江戸時代の印刷物にふれたり読んでみよう！	いのちのたび博物館 守友学芸員(歴史)	8 月 2 日(土)	16
手作りモーター教室	安川電機みらい館	8 月 19 日(火)	16
発電のおくみ電機はどうやって作られる？	タカミヤ環境ミュージアム	8 月 30 日(土)	16
モーターの振動で動く車を作ろう	スペース LABO 分館	9 月 13 日(土)	16
カエルやへびたちのかたちのひみつ 閉講式	いのちのたび博物館 江頭学芸員(自然史)	9 月 27 日(土)	16

【後期】

講座名	担当学芸員	開催日	参加者数
開講式 魚の形の観察	いのちのたび博物館 日比野学芸員(自然史)	10 月 18 日(土)	16
ウィンタープログラム	KGG (英語村)	11 月 1 日(土)	16
LABO でフシギ体験&プラネタリウム鑑賞	スペース LABO 本館	11 月 15 日(土)	16
古文書を観察しよう、読んでみよう	いのちのたび博物館 佐藤学芸員(歴史)	11 月 29 日(土)	16
ペットボトルから糸を作る	タカミヤ環境ミュージアム	12 月 13 日(土)	16
ロボット手作り教室	安川電機みらい館	12 月 25 日(木)	16
英語で SDGs	KGG (英語村)	1 月 17 日(土)	16
カニの形を観察しよう	いのちのたび博物館 竹下学芸員(自然史)	1 月 31 日(土)	16
生き物の観察 電気を使う生き物？	タカミヤ環境ミュージアム	2 月 14 日(土)	16
静電気を利用したおもしろ工作をしよう	スペース LABO 分館	2 月 28 日(土)	16
哺乳類の頭骨を観察してみよう 閉講式	いのちのたび博物館 中西学芸員 (自然史)	3 月 7 日(土)	16

(2) 普及講座など

1) 普及講座

実施数：21 講座 32 回（他に中止 1 講座 1 回）

参加者数：延べ 822 人

自然史系普及講座

種 別	講座名	開催日	参加者数
野外観察会	地質の日記念「化石と地質を楽しむジオハイキング」	5 月 6 日(火)	雨天中止
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	5 月 11 日(日)	28
室内講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう！	6 月 1 日(日)	16
室内講座	昆虫標本作製教室	6 月 7 日(土)	26
室内講座	顕微鏡で見る鉱物	6 月 8 日(日)	13
室内講座	ヤドカリのひっこしを観察しよう	6 月 14 日(土)	19
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	7 月 19 日(土)	8
室内講座	夏の室内講座「小さな化石にふれてみよう！」	8 月 24 日(日)	11
野外観察会	秋の野外観察会「銀世界の平尾台ジオハイキング」	10 月 5 日(日)	15
室内講座	化石の日イベント「いのちのたびの恐竜」	10 月 18 日(土)	19
室内講座	哺乳類の頭骨を観察してみよう	11 月 8 日(土)	2
室内講座	食魚談義	12 月 7 日(日)	9
室内講座	恐竜この 1 年	12 月 20 日(土)	13
室内講座	恐竜すす払い	12 月 26 日(金)	5
室内講座	身近にいる？サンショウウオを探してみよう	1 月 25 日(日)	4

歴史系普及講座

種 別	講座名	開催日	参加者数
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【花尾城跡】	4 月 26 日(土)	14
室内講座	古文書読み方講座（全 12 回）	4 月 23 日(水) ～3 月 25 日(水)	540 (45 人×12 回)
室内講座	小倉織入門教室	7 月 19 日(土)	18
歴史探訪	木屋瀬を歩く	10 月 25 日(土)	中止

自然史・歴史合同普及講座

種 別	講座名	開催日	参加者数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう	7 月 24 日(木)	19
いのたび自然塾	蓮から採れる糸	7 月 31 日(木)	21
室内講座	どんぐりと遊ぼう！食べよう！	11 月 1 日(土)	22

2) 特別展に関連した普及講座

実施数：8 講座 11 回

参加者数：延べ 361 人

特別展	講座名	開催日	参加者数
夏の特別展	身近な食べ物から骨の形を知ってみよう	8 月 3 日(日)	11
		9 月 13 日(土)	17
	みんなで作ろう骨格標本	9 月 6 日(土)	82
秋の特別展	ギャラリートーク	10 月 12 日(日)	25
		11 月 30 日(日)	37
	江戸の版本を触ってみよう	10 月 19 日(日)	3
		11 月 22 日(土)	6
	蔦屋重三郎と江戸の版元たち	11 月 8 日(土)	107
	浮世絵ギャラリーツアー	11 月 15 日(土)	25
	和綴じのオリジナルノートをつくろう	11 月 29 日(土)	17
春の特別展	化石発掘体験	3 月 29 日(日)	31

3) 特別展に関連したイベント

実施数：6 回

参加者数：延べ 4,767 人

特別展	講座・イベント名	開催日	参加者数
夏の特別展	ナイトミュージアム	7 月 26 日(土)	406
		8 月 23 日(土)	775
秋の特別展	ハロウィンナイトミュージアム	10 月 26 日(日)	768
	べらぼうたちの落語会	11 月 2 日(日)	60
	コスプレナイトミュージアム	11 月 29 日(土)	475
春の特別展	ナイトミュージアム	3 月 21 日(土)	2,283

(3) 博物館実習

1) 自然史課

学芸員養成課程の学生を受け入れ、各学芸員が分担して、各種自然史資料の取り扱いと整理、来館者調査などに関する指導を行った。学生は 5 日間または 10 日間を選択可能。

【第 1 期】

期 間：令和 7 年 8 月 5 日(火)～8 月 16 日(土) 日曜・月曜休講の 10 日間

人 数：4 人

所属大学：愛媛大学 1 名、九州産業大学 1 名、東亜大学 1 名、福岡大学 1 名

【第2期】

期 間：令和7年8月26日(火)～9月6日(土) 日曜・月曜休講の10日間

人 数：5人（うち1人は5日間）

所属大学：福岡大学3名、宮崎大学1名、酪農学園大学1名

2) 歴史課

学芸員養成課程の学生を受け入れ、各学芸員が分担して、考古資料・歴史資料（古文書、古布）、美術工芸品（書画）の取り扱いと整理に関する指導を行った。

期 間：令和7年8月19日(火)～8月23日(土) 5日間

人 数：9人（うち1人は8月24日までの6日間）

所属大学：北九州市立大学1人、九州産業大学1人、神戸学院大学1人、駒澤大学1人、佐賀大学2人、西南学院大学1人、福岡大学1人、八洲学園大学1人

14. 社会貢献

(1) 職場体験・研修など

職場体験： 3回、10人
インターンシップ：3回、10人
教員研修： 4回、22人

職場体験 ①

期 間：令和7年7月9日(水)
研修者：敬愛中学校 2学年 4名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム等）、交流員業務体験、自然史研修（バックヤード）

職場体験 ②

期 間：令和7年8月18日(月)
研修者：西南女学院中学校 2学年 4名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム等）、交流員業務体験、自然史研修（バックヤード）

職場体験 ③

期 間：令和7年10月16日(木)～17日(金)
研修者：福岡教育大学附属中学校 2学年 2名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム等）、交流員業務体験、学芸員業務体験（古美術工芸）

インターンシップ ①

期 間：令和7年8月20日(水)～令和7年8月21日(木)
研修者：九州女子大学 2学年 5名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム等）、交流員業務体験、ワークショップ、学芸員業務体験（鉱物・岩石）

インターンシップ ②

期 間：令和7年9月9日(火)～令和7年9月10日(水)
研修者：九州女子大学 2学年 4名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム・学校対応等）、交流員業務体験、学芸員業務体験（歴史 中世）

インターンシップ ③

期 間：令和7年12月22日(月)～令和7年12月24日(水)
研修者：大和青藍高等学校 2学年 1名
内 容：MT業務体験（博物館概要・体験プログラム等）、交流員業務体験、清掃業務体験、学芸員業務体験（近世史・古脊椎動物）、課題研修

教員研修（市内外の教員を対象とした研修）

日 時：令和7年7月23日(水)、25日(金)、30日(水)、8月1日(金) 9:00～17:15

参加者：市内外の教員 22 名（市内 16 名、市外 6 名）

対応者：中西学芸員・佐藤学芸員・森学芸員・MT

内 容：体験プログラム、館内見学、バックヤードツアー、KGG 体験など

アンケート結果より

- ・ 全体的に高評価である。特にバックヤードツアーやギャラリートークは好評で、社会見学を想定したり、オンライン授業の視点をもって見学したりと、様々な面で学びにつながっていた。
- ・ 実習体験や学芸員講話は人気で、今後も継続を望む声が多かった。
- ・ 周辺施設（スペースラボ、KGG）体験も好評であった。
- ・ 授業に直結する研修内容を希望する声もあった。
- ・ 市外の先生方は、自宅でアンケートをすることになったので、回答率が低かった。



（２）外部機関の依頼による講演など

１）普及課

6 件 北九州市立大学、福岡大学、日本景観生態学会、山田緑地管理事務所といった団体の依頼を受け、講義・講話を行った。

２）自然史課

43 件 市内外の小・中学校や高等学校、高雄科技大學、北九州市立大学、九州産業大学、九州女子大学、九州大学、京都大学、東京大学、長崎大学、広島大学、福岡女子大、山口大学、鹿児島県立博物館、和歌山県立自然博物館、北九州市八幡西区、大分県宇佐市、福岡県宗像市、山口県岩国市、アニコム先進医療研究所株式会社、NHK エンタープライズ、NPO 法人ツシマヤマネコを守る会、NPO 法人帆柱自然公園愛護会、かずさ DNA 研究所、魚類分類研究会、公益財団法人日本野鳥の会、公益財団法人日本野鳥の会北九州支部、国立研究開発法人国立環境研究所、日本地質学会、漫湖水鳥・湿地センターといった団体の依頼を受け、講義・講話や学術調査などを行った。

３）歴史課

18 件：本市の新規採用職員研修、北九州市立大学、北九州工業高等専門学校、北九州市年長者大学校穴生学舎及び周望学舎、北九州市立自然史・歴史博物館歴史友の会、長崎街道木屋瀬宿記念館、北九州観光市民大学、北九州市立中央図書館、田川市立図書館、霧丘市民センター、

西日本新聞北九州本社ファン北トークライブにおいて、北九州地域の歴史・文化・に関わる様々なテーマで講演を行った。

(3) 団体・委員会への就任依頼

1) 普及課

10 件

真鍋 徹

- ・「有識者マッチング制度」委員（環境省自然環境局自然環境計画課）
- ・佐賀県立宇宙科学館資料評価者（佐賀県立博物館）
- ・広谷湿原県設置施設管理方針検討委員会（福岡県環境部自然環境課）
- ・福岡県生物多様性戦略専門委員会委員（福岡県環境部自然環境課）
- ・福岡県環境影響評価専門委員 ～ 2025. 6. 30（福岡県環境部自然環境課）
- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・福岡市科学館に係る指定管理者評価委員会委員（福岡市こども未来局）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会委員（独立行政法人水資源機構・朝倉ダム総合事業所）
- ・西日本自然史系博物館ネットワーク理事（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

2) 自然史課

64 件

森 康

- ・日本鉱物学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

御前明洋

- ・日本古生物学会英文誌 Associate Editor（日本古生物学会）

大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会欧文誌編集幹事（日本古生物学会）

養島悠介

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・中九州横断道路（大分～犬飼）環境影響評価技術検討委員会（国土交通省九州地方整備局）
- ・第 14 期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
- ・英文誌編集委員（Associate Editor）（日本昆虫学会）
- ・庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・評議員（日本甲虫学会）
- ・和文誌編集委員（日本甲虫学会）
- ・ホームページ担当幹事（日本甲虫学会）

- ・ 標本救済ネット ケースワーカー（特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

太田泰弘

- ・ 洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・ 日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・ 日本地質学会西日本支部幹事（日本地質学会）
- ・ 日本地質学会代議員（日本地質学会・地方区）（日本地質学会）
- ・ 日本洞窟学会第 51 回大会（創立 50 周年記念秋吉台大会）大会実行委員（日本洞窟学会）
- ・ 日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・ 福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）
- ・ 福岡県環境教育学会選挙管理委員（福岡県環境教育学会）

江頭幸士郎

- ・ 希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・ 環境省第 5 次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・ 河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・ 福岡県指定希少野生動植物種等選定検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・ 宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・ 日本爬虫両棲類学会標準和名委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・ 九州両生爬虫類研究会編集委員長（九州両生爬虫類研究会）
- ・ 日本爬虫両棲類学会英文誌 Associate Editor（日本爬虫両棲類学会）

日比野友亮

- ・ 環境省第 5 次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・ 福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・ 日本魚類学会選挙管理委員（日本魚類学会）
- ・ 日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
- ・ 日本魚類学会標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・ 日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・ 日本魚類学会和文誌主任（日本魚類学会）
- ・ ニッチェ・ライフ副編集委員長（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・ 福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・ 福岡県指定希少野生動植物種等選定検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・ 久留米市環境保全専門委員（久留米市環境部）
- ・ 周南市ツル保護協議会専門委員会委員（周南市文化スポーツ観光部）
- ・ 福岡市環境影響評価審査会委員（福岡市）
- ・ 日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・ 日本鳥学会英文誌編集委員・副委員長（日本鳥学会）
- ・ 日本鳥学会企画委員・委員長（日本鳥学会）
- ・ 日本鳥学会代議員（日本鳥学会）

中西 希

- ・ 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会委員（環境省）
- ・ 令和 7 年度イリオモテヤマネコ WG 委員（環境省）
- ・ 令和 7 年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・ 令和 7 年度ツシマヤマネコ保護増殖検討会オブザーバー（環境省）

- ・令和7年度沖縄島北部地域マングース防除事業検討委員会委員（環境省）
- ・令和7年度外来種対策事業（哺乳類対策）ノヤギ作業部会委員（沖縄県）
- ・令和7年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県）
- ・西表島モニタリング評価委員会委員（沖縄県）
- ・特別天然記念物カモシカ食害対策事業に係るカモシカ通常調査現地調査員（大分県）
- ・令和7年度沖縄島北部地域マングース防除事業検討委員会委員（沖縄県）
- ・第14期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
- ・福岡市環境影響評価審査会委員（福岡市）
- ・日本哺乳類学会英文誌編集委員会主任編集委員（日本哺乳類学会）
- ・日本哺乳類学会代議員（日本哺乳類学会）
- ・日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会 中・小型食肉目保護管理検討作業部会委員（日本哺乳類学会）

竹下文雄

- ・英文誌編集委員（日本甲殻類学会）
- ・英文誌編集委員（日本ベントス学会）

3）歴史課

6 件

日比野利信

- ・田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員（田川市）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・飯塚市文化財保存活用推進委員会専門部会員（飯塚市教育委員会）
- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

富岡優子

- ・九州歴史資料館協議会委員（福岡県教育委員会）

15. ボランティア組織の活動

(1) シーダー組織

1) 登録人数

50 人（令和 8 年 3 月 31 日現在）

年齢の内訳：30 代 1 人、40 代 2 人、50 代 4 人、60 代 12 人、70 代 22 人、80 代 9 人

2) 活動内容

展示案内グループ

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

講座補助グループ

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子どもスクールおよびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

演示グループ

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、恐竜や九州の民話をテーマとした「紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

3) 活動実績

展示案内グループ

展示解説・案内

- ・個人や団体（公共施設）に対して博物館展示物の解説を行った。
- ・毎月行うグループ会議や自主学習会を通して、活動の成果や課題等について共通理解を図った。

講座補助グループ

講座中の支援・補助、石臼の演示

- ・講座の準備や片付けの支援により、次の活動への移行がスムーズに行われた。
- ・全ての石臼体験にシーダーが関わり、小学 3 年生の社会科学習を支援した。

演示グループ

紙芝居の演示、折り紙の演示、季節の飾りつけ

- ・特に、恐竜の折り紙等は、子どもたちに人気があった。毎週土曜日を中心に実施。
- ・小倉織の実演や体験は、様々な年代への興味・関心を高めた。
- ・定期的な子どもミュージアムの飾りつけが効果的であった。

4) 研修

- ・全シーダーを対象とした「シーダーゼミ」を全11回(17講座)実施。
- ・シーダーバス研修で芦屋歴史の里、芦屋釜の里、海の道むなかた館、宗像大社を視察(展示物見学、散策、交流会)。

5) ボランティア交流会

日時：令和7年12月11日(木) 13:45～14:15

会場：海の道むなかた館

(2) 資料整理補助グループ

1) 植物さく葉標本整理補助グループ

登録人数：6人(令和8年3月31日現在)

活動内容：植物さく葉標本の台紙への貼付および標本情報の転記

活動実績：延べ日数 21日

整理標本点数 2,046点

2) 現生脊椎動物標本整理補助グループ

登録人数：26人(令和8年3月31日現在)

活動内容(鳥類)：現生鳥類冷凍標本の仮剥製化など

活動実績(鳥類)：延べ日数8日、整理点数12点

活動内容(哺乳類)：現生哺乳類冷凍標本の骨格標本化など

活動実績(哺乳類)：延べ日数2日、整理点数7点

3) 小倉織復元補助グループ

登録人数：20人(令和8年3月31日現在)

活動内容：堀切辰一氏収集資料の整理、博物館シーダー演示グループ活動補助

活動実績：延べ日数15日、整理点数230点

16. 博物館友の会の活動

(1) 自然史友の会

1) 組織概要

目 的：博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、
会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数：574名（令和8年3月31日現在）

役員等：会長 佐藤政弘、副会長 新海義治・島添恒太、幹事長 黒河雅文、事業担当幹事10名、出版
担当幹事8名、庶務会計担当幹事2名、会計監査2名、評議員24名、顧問13名

年会費：正会員 大人4,000円、小・中・高生2,000円、家族5,000円、賛助会員11,000円

2) 活動内容

会誌「わたしたちの自然史」の発行 B5版、総カラー20～30ページ、年2回

- ・第162号（令和7年9月30日発行）
「北九州市響灘ジオトープにおける陸生の鳥類相について」など7件の報告と研究発表会要旨集
- ・第163号（令和8年3月10日発行）
「自然史友の会研究部会合同野外観察会（瀬板の森の自然）の報告」など13件の報告

研究部会例会

- ・7部会合計39回（地質鉱物7回、化石1回、植物8回、昆虫2回、水生動物7回、両生・爬虫類12回、鳥類2回）

友の会野外観察会

- ・令和7年6月22日（日）瀬板の森公園（北九州市八幡西区） 参加者30人

博物館の講座への協力

- ・バードウィーク市民探鳥会
- ・室内講座「昆虫標本作製講座」
- ・夏休み教室「権現山の昆虫観察会」

市民向け室内講座

- ・植物細密画を描いてみよう！
第1回 令和7年7月6日（日）13:00～16:30 博物館実習室 参加者22人
第2回 令和7年10月26日（日）13:00～16:30 博物館実習室 参加者6人

会員向け室内講座等

- ・令和7年11月9日（日）13:00～15:00 博物館実習室 参加者16人
- ・令和8年2月8日（日）13:00～16:00 博物館講座室・実習室 参加者50人程度

研究発表会

- ・令和7年5月25日（日）博物館ガイド館ほか 参加者85人
「温暖化により福岡県のブナ林は減少しているか」など8件の発表

会議等の実施

- ・総会 1 回、評議員会 1 回
- ・三役・各担当幹事会代表会 2 回
- ・出版担当幹事会 2 回（メール会議を除く）
- ・事業担当幹事会 3 回
- ・庶務会計担当幹事会 1 回
- ・あり方委員会 7 回

（２）歴史友の会

１）組織概要

目 的：本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、歴史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第 2 条）。

会員数：146 名（令和 8 年 3 月 31 日現在）

役員等：会長 永尾正剛、副会長 渡辺善夫・福浦高利

年会費：正会員 5,000 円、賛助会員 10,000 円以上、臨時会員 800 円（資料代、実費）

２）活動内容

会誌「友の会だより」の発行 A4 版、総カラー 4 ページ、年 3 回

講演会 年 12 回開催 参加者総計 940 名

日時	演題	講師（敬称略・所属は当時）	人数
4 月 19 日（土）	蛇行剣・甕龍文盾形銅鏡と富雄丸山古墳	奈良市教育委員会文化財課 村瀬 陸	93
5 月 10 日（土）	幕末維新の志士たち—久坂玄瑞と高杉晋作を中心に—	萩博物館統括学芸員 道迫 真吾	82
6 月 14 日（土）	小笠原文庫にみる琉球使節	九州大学比較社会文化研究院准教授 木土 博成	77
7 月 12 日（土）	戦後 80 年 宇佐から平和を考える	宇佐市教育委員会社会教育課平和ミュージアム準備室学芸員 安田 晃子	68
8 月 2 日（土）	講話と対談 昭和 50 年の北九州市立歴史博物館	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員 永尾 正剛	65
9 月 13 日（土）	伝説を繋ぐ茅葺	阿蘇茅葺工房代表 植田 龍雄	65
10 月 18 日（土）	弥生時代の開始めぐる最新の研究動向	北九州市文化企画課学芸員 小南 裕一	71
11 月 8 日（土）	特別展関連講演会 蔦屋重三郎と江戸の版元たち	太田記念美術館主席学芸員 日野原 健司	107
12 月 13 日（土）	古代史・考古学への目覚め—朝日新聞社時代の松本清張—	北九州市立松本清張記念館学芸員 小野 芳美	76
1 月 17 日（土）	蓮糸の仏画と中将姫	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 富岡 優子	72
2 月 14 日（土）	中・近世の城郭と建築—天守・櫓・御殿—	北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館学芸員 中西 義昌	90
3 月 14 日（土）	福岡の茶陶	九州歴史資料館企画主査 遠藤 啓介	74

史跡見学会 年4回開催 参加者総計 103 名

日時	場所	人数
5月25日(土)～5月26日(日)	遠賀川流域・飯塚方面史跡巡り「遠賀川流域の遺跡と資料館をめぐって」	25
9月27日(金)～9月29日(日)	関西・奈良方面史跡見学会「あおによし 奈良のみやこと古墳をめぐる」	26
11月16日(木)	史跡めぐりバスハイク「九州歴史資料館特別展見学と周辺の資料館をたずねて」	23
2月8日(木)	史跡めぐりバスハイク「防府天満宮と毛利博物館をたずねて」	29

学芸員と行く文化財ガイドツアー 年2回開催 参加者総計 61 名

日時	名称	ガイド	人数
4月28日(月)	鎮西上人ご生誕 吉祥寺と藤まつり	北九州市立自然史・歴史博物館 富岡 優子・佐藤 凌成	26
10月29日(水)	戦後80年 平和のまちミュージアム見学と 小倉陸軍造兵廠跡探訪	北九州市立自然史・歴史博物館 日比野 利信 北九州市平和のまちミュージアム 小倉徳彦	35

17. 資料の収集保管状況

(1) 自然史課

1) 令和7年度資料登録状況

		購入		委託製作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計	
		件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点	件	点
生物系	脊椎動物	0	0	0	0	229	239	0	0	484	531	0	0	91	91	804	861
	無脊椎動物	0	0	0	0	237	1209	0	0	0	0	0	0	0	0	237	1,209
	昆虫	0	0	0	0	195	195	0	0	8	8	0	0	0	0	203	203
	種子植物	0	0	0	0	169	184	0	0	23	43	0	0	0	0	192	227
	シダ植物	2,022	2,022	0	0	40	41	0	0	1	1	0	0	0	0	2,063	2,064
	コケ植物	0	0	0	0	74	74	0	0	0	0	0	0	0	0	74	74
	菌類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<小計>	2,022	2,022	0	0	944	1,942	0	0	516	583	0	0	91	91	3,573	4,638
地学系	脊椎動物	4	4	0	0	10	14	0	0	0	0	0	0	0	0	14	18
	無脊椎動物	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	3	3
	昆虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	種子植物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他の植物等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩石	0	0	0	0	81	85	265	283	0	0	0	0	0	0	346	368
	鉱物	0	0	0	0	198	220	518	612	0	0	0	0	0	0	716	832
	<小計>	4	4	0	0	290	320	783	895	2	2	0	0	0	0	1,079	1,221
他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<合計>		2,026	2,026	0	0	1,234	2,262	783	895	518	585	0	0	91	91	4,652	5,859

2) 令和7年度資料収集状況

		購入	委託製作	寄贈	寄託	採集	交換	その他	合計	令和7年度末累計
		点	点	点	点	点	点	点	点	点
生物系	脊椎動物	0	6	94	0	531	0	91	722	24,896
	無脊椎動物	4	0	1	0	0	0	0	5	64,799
	昆虫	0	13	39	0	8	0	0	60	529,212
	種子植物	0	0	103	0	42	0	0	145	32,133
	シダ植物	0	0	15	0	1	0	0	16	66,555
	コケ植物	0	0	65	0	0	0	0	65	963
	菌類	0	0	19	0	0	0	0	19	143
	その他	0	0	1	0	0	0	0	1	1
	<小計>	4	19	337	0	582	0	0	1,033	718,702
地学系	脊椎動物	0	0	9	0	0	0	0	9	9,276
	無脊椎動物	0	0	42	0	0	0	0	42	10,666
	昆虫	0	0	0	0	0	0	0	0	1,443
	種子植物	0	0	9	0	0	0	0	9	7,399
	他の植物	0	0	0	0	0	0	0	0	422
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩石	0	0	104	0	0	0	0	104	7,859
	鉱物	0	0	124	0	0	0	0	124	27,113
	<小計>	0	0	288	0	0	0	0	288	64,178
他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	642
<合計>		3	20	625	0	582	0	0	1,321	783,522

主な購入・委託製作資料

- ・タマムシ標本：13 点
- ・トビウオなど魚類剥製：5 点
- ・アカテガニなど甲殻類剥製：3 点
- ・トビイカ模型：1 点

主な寄贈資料

- ・昆虫類標本（ホロタイプ 9 点、パラタイプ 6 点）
- ・菌類、地衣類、コケ植物などの乾燥標本 43 点、シダ植物、種子植物のさく葉標本 43 点を含む一括資料

主な採集資料

- ・両生類、爬虫類の液浸標本など 389 点（研究事業の一環として採集）
- ・魚類の液浸標本 133 点（研究事業の一環として採集）

その他

- ・ツシマヤマネコ 68 点（環境省より譲り受け）

（２）歴史課

１）令和 7 年度資料登録状況（デジタルデータベース化状況）

歴史系の収蔵資料については、出所ごとの資料群台帳を作成し、1 点ごとの詳細目録など各資料群に関わる諸データを紐付けしながら管理を図っている。また、収蔵資料 1 点ごとのデータを登録したデジタルアーカイブの構築を進め、令和 7 年度は 524 件の登録を行った。

２）令和 7 年度資料収集状況

単位：点

系 統	令和 6 年度末累計	寄贈	新規寄託	購入	合計	令和 7 年度末累計
歴史系	38,807	3,267	1	8	3,276	42,083
考古系	52,236	510	0	0	510	52,746
合 計	91,043	3,777	1	8	3,786	94,829

寄贈資料（50 音順）

系 統	資料群名	資料の内容	員数
歴史系	猪ヶ倉家資料	掛軸・額・屏風ほか	119
歴史系	石川家資料	人造石研ぎ出し流し台	1
歴史系	板家資料	乃木希典書簡・枯木図	2
歴史系	伊藤家資料	扇風機・書籍	14
歴史系	岡田家資料	道具・調度品・文書類ほか	950
歴史系	岡山家資料	木綿地袴雛型・ビーズ財布・レース編み衣料ほか	16
歴史系	奥家資料	農具（一斗枰・斗搔棒・押切機ほか）	11
歴史系	勝家資料	風呂敷	3

系 統	資料群名	資料の内容	員数
歴史系	鎌田家資料	田香焼	4
歴史系	鎌田家（福田屋）資料	絵画資料・文書・書簡・調度品・染色資料	623
歴史系	神崎家資料	写真・楽譜・書籍類	251
歴史系	小嶋家資料	屏風・銅製捺染ローラー	5
歴史系	重松家資料	古文書・掛軸ほか	60
歴史系	竹畠家資料	銅製鉦	1
歴史系	寺田家資料	とんび・写真・応接台	3
歴史系	中村家資料	レコードほか	413
歴史系	馬場家資料	家電（電気ストーブ等）・衣類（ジャケット等）ほか	29
歴史系	早川家資料	衣食住に関する生活資料（鼻緒すげ替え用道具一式等）・八幡農業協同組合八幡支所落成記念皿ほか	105
歴史系	原口家資料	綿入れ半纏	2
歴史系	原田家資料	刀・脇差・書籍	4
考古系	日高正幸氏資料	平尾台遺跡出土遺物（石器・土器片）	510
歴史系	松下家資料	洋服（ジャケットほか）	23
歴史系	松野家資料	小倉絵巻	1
歴史系	宮内家資料	写真	9
歴史系	三好家資料	賞状・通告表・証書	6
歴史系	村上家資料	書籍類・文書類・絵図類ほか	457
歴史系	村田家資料	縞手本・かつぼり・更紗・かいまき	7
歴史系	矢野家資料	木綿地袴着物ほか染織資料	30
歴史系	山下家資料	パーソナルファックス おたつくす	1
歴史系	吉永卯太郎旧蔵資料	書簡・古文書・拓本ほか	117
合 計			3,777

新規寄託資料

- ・アインシュタイン博士サイン入り扁額 1点

アインシュタイン博士は大正11年（1922）に来日し、福岡市で来日最後の公演を行って、博多の栄屋旅館に宿泊した際のサイン。同行した物理学者の石原純が「おほいなる 相対論の 創始者の 賢やしろし 冬の日あかく」と歌を書き、博士が「AE」「1922」とサインを入れている。

購入資料

- ・黒田二十四騎 井上之房書状 1点

福岡藩重臣で、黒崎・陣原を中心に一族合わせて2万石を与えられていた井上道柏（之房）が発給した書状。黒田騒動に関わる可能性もあるもの。

- ・北野茶会記 1点

小倉藩士で国学者の西田直養が、豊臣秀吉が開いた北野大茶会に関する「太閤記」などの関連記事を集成したもの。

- ・豊前国椎田村史料 5点

小倉藩の椎田手永に関する史料群。同手永各村の基本情報がわかる「椎田手永手鑑帳」のほか、地租改正の記録や、明治時代の村の産物がわかる資料が含まれている。

- ・THE ILLUSTRATED LONDON NEWS No.1293, 1294 1点（2枚）

世界最初のイラスト入り週刊新聞の、元治元年（1864）の下関戦争を伝える記事である。

18. 資料の特別観覧状況

当館には、「外部の研究員の受け入れに関する要綱」に基づき、所蔵する資料などの研究を希望する外部研究者を受託研究員として受け入れる制度（以下、受託研究員制度とする。）が存在する。また、研究や教育普及のため、当館が所蔵する資料の研究などを館内において実施する制度（以下、特別観覧制度とする。）が存在する。

（１）自然史課

１）受託研究員制度

本制度により、１名が受託研究員となり、科学研究費助成金による研究を実施した。

２）特別観覧制度

本制度による資料の利用状況は以下のとおり。

- ・生物系資料：１７件、２３人
- ・地学系資料：８件、１２人

（２）歴史課

１）受託研究員制度

本制度により、当市の学芸員１名が受託研究員となり、科学研究費助成金による研究を実施した。

２）特別観覧制度

本制度による資料の利用状況は以下のとおり。

- ・歴史系資料：７件、６０２点、１０人
- ・考古系資料：２件、２点、２人

19. 資料の貸出状況

(1) 自然史課

1) 研究目的の貸出

- ・生物系資料：3 件、835 点
- ・地学系資料：2 件、15 点

2) 教育普及目的の貸出

13 件、53 点

資料名	点数	貸出先	目的	期間
イリオモテヤマネコ頭骨標本	1	環境省西表自然保護官事務所	常設展での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
アライグマ、アナグマ、タヌキ剥製標本	3	北九州市ほたる館	企画展「身近!?な生き物アライグマ展」での展示	R7. 4. 23～ R7. 6. 2
イナバテナガコガネ化石	1	鳥取県立博物館	特別展「とことん！昆虫展」での展示	R7. 5. 13
アエンデ隕石、マーチソン隕石、NWA7676 隕石、チェリヤビンク隕石、橄欖石	5	北九州市科学館	企画展「小惑星イトカワ&リュウグウ ダブルサンプル全国巡回展 in スペース LABO」での展示	R7. 5. 23～ R7. 6. 10
ナガレタゴガエルなど両生爬虫類標本	9	萩博物館	特別展「絶滅動物展」での展示	R7. 6. 25～ R7. 9. 30
ショニサウルス複製頭骨、ケツアルコアトルス生体復元模型	2	福井県立恐竜博物館	特別展「巨大恐竜展 2025」での展示	R7. 6 下旬～ R7. 9 下旬
ニホンマムシなど爬虫類標本	4	北九州市ほたる館	企画展「世界のヘビ展」での展示	R7. 7. 18～ R7. 9. 1
カワセミ本剥製標本	1	タカミヤ環境ミュージアム	イベント「剥製を見ながら、カワセミの羽を扇子に描こう！」での使用	R7. 7. 29
ヒキダコウモリダコ下顎化石のレプリカ	1	NHK札幌放送局メディアセンター	イベント「NHK 恐竜超世界 LABORATORY」での使用	R7. 9. 5～ R7. 9. 19
チリーフラミンゴなど鳥類本剥製標本・骨格標本	19	北九州市ほたる館	企画展「鳥類ミニ立体図鑑～かたちが語る鳥のひみつ～」での展示	R7. 12. 10～ R8. 2. 2
アライグマ剥製標本	1	北九州市役所産業経済局農林水産部鳥獣被害対策課	イベント「農林水産まつり」での展示	R8. 2. 6～ R8. 2. 7
イリオモテヤマネコ毛皮標本	1	琉球大学博物館（風樹館）	企画展「イリオモテヤマネコと見守ってきた人たち」での展示	R8. 2. 6～ R8. 4. 6
ヤマネ剥製標本、ナマズ液浸標本、ホラガイ、サメの歯化石	5	北九州市科学館	企画展「百鬼騒乱～災いと妖怪伝承～」での展示	R8. 2. 24～ R8. 3. 31

(2) 歴史課

1) 研究目的の貸出

なし

2) 教育普及目的の貸出

3 件 25 点

資料名	点数	貸出先	目的	期間
糸車 1 点、綿繰機 1 点	2	北九州市立小倉城庭園	常設展「小倉織―歴史と伝統」での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
銅矛 2 点(冷水遺跡出土)、銅矛レプリカ 1 点(重留遺跡出土)、須恵器 18 点(天観寺窯跡群出土)	21	北九州市立埋蔵文化財センター	常設展での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
牧山古墳群出土平瓶	1	戸畑郷土史会	常設展での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
宮原遺跡出土石包丁	1	大阪府立弥生文化博物館	常設展での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
安川家書簡	2	旧安川邸	常設展での展示	R7. 4. 1～ R8. 3. 31
伝岩戸山古墳器台	2	八女市教育委員会	特別展「岩戸山古墳再発見―新確認の資料等―」	R7. 10. 29～ R8. 1. 31

20. 画像等資料の貸出状況

(1) 自然史課

22 件 40 点

資料名	点数	貸出先	目的	申請日
ディプロミスタス・コクラエンシスの記載論文、山田緑地周辺の化石資料データ、山田緑地産出化石の画像、ディプロミスタス生息時代の山田緑地の想像図、山田緑地発掘風景の画像、博物館展示風景の画像	6	鬼武伸男(山田緑地管理事務所)	山田緑地開園 30 周年記念イベントでの使用	R7. 4. 27
マッコウクジラ骨格標本の画像	1	株式会社 KANADEL	「角川の集める図鑑 GET！ひらめく理科」(KADOKAWA) への掲載	R7. 5. 1
北海道産カワウソ剥製標本の画像	1	和久大介(東京農業大学)	ウェブページでの使用	R7. 5. 13
アンモナイト標本の画像	7	株式会社技術評論社	「推しアンモナイト図鑑」への掲載	R7. 5. 15
天然アスファルトの画像	1	鶴林正史(個人事業主)	YouTube 動画での使用	R7. 5. 25
<i>Gaudryceras tenuiliratum</i> 標本の画像	1	株式会社技術評論社	「推しアンモナイト図鑑」への掲載	R7. 5. 27
ティラノサウルス、スピノサウルス、ギガノトサウルスの画像	1	株式会社 Gakken	「学研の図鑑 LIVE エクストリーム ティラノサウルス」への掲載	R7. 7. 29
ステゴサウルスの尻尾の画像	1	株式会社 Gakken	「学研の科学 恐竜化石発掘キット」への掲載	R7. 8. 6
アオバアリガタハネカクシ標本の画像	1	RKB 毎日放送	「タダイマ！」での使用	R7. 8. 19
キリン交連骨格の画像	1	株式会社スタッフラビ	「チコちゃんに叱られる」(NHK) での使用	R7. 10. 30
爬虫両生類各種の画像	4	自然環境研究センター	環境省レッドリストでの公開用画像候補	R7. 11. 19
博物館ロゴの画像	1	宮田真也(城西大学)	プレスリリースでの使用	R7. 10. 30
ブラビトセラスの画像	1	NHK エンタープライズ	ウェブサイトでの使用	R7. 11. 21

資料名	点数	貸出先	目的	申請日
爬虫両生類各種の画像	4	森 哲(京都大学)	京都府レッドリストでの公開用画像候補	R7. 12. 5
博物館ロゴの画像	1	山口典之(長崎大学)	プレスリリースでの使用	R7. 12. 8
満州産イヌ科剥製の画像	1	日原昭人(日本狼之棲館)	写真展での使用	R7. 12. 31
カンムリウミスズメの画像	1	平田和彦(千葉県立中央博物館分館海の博物館)	企画展「うみ鳥つぷ2」での使用	R8. 1. 6
カルカロドン・メガロドン顎復元模型の写真	1	させばパール・シー株式会社	企画展「THE・サメ展」での使用	R8. 1. 14
両生類の卵の画像	1	鹿児島県立博物館	展示解説パネルでの使用	R8. 3. 6
館内展示	1	一般社団法人 As iZ	広報・活動実績報告での使用	R8. 3. 19
ステゴサウルス尻尾、直方隕石、アカントデス、イヌブナ、エデスタス、ケツアルコアトルス、ダンクルオステウス、ティロサウルス、バクトリテス、パン皮状火山弾、ヒラコテリウム、ペンギンモドキ、レピドデス	1	株式会社 Gakken	「学研の図鑑 LIVE 鉱物・岩石・化石」への掲載	R8. 3. 26
<i>Nanaimoteuthis</i> 、 <i>Pravitoceras</i> の画像	2	幻冬舎	書籍(タイトル未定)への掲載	R8. 3. 26

(2) 歴史課

16 件 77 点

資料名	点数	貸出先	目的	申請日
磨製石包丁(貫川遺跡出土)、孔列文土器(貫川遺跡出土)	3	名古屋市科学館長	特別展「古代 DNA—日本人のきた道—」での使用	R7. 4. 17
小笠原忠真像	1	夢追塾 18 期生チームヒストリーランチ	歴史講座「小笠原忠真と小笠原小倉藩の始まり」チラシへの掲載	R7. 7. 29
高橋鑑種画像(法輪山安全禅寺開基公尊像図、部分)	1	戎光祥出版株式会社	中村知裕著『秋月種実と戦国争乱』への掲載	R7. 7. 31
小倉織袴、小倉織反物	2	(株)NHK エデュケーショナルコンテンツ開発制作センター	「日曜美術館～伝統工芸展～」(NHK)での使用	R7. 8. 20
小笠原忠政書状、源忠真公年譜(寺院の移転、築城の様子、明石下屋敷出火、明石から小倉への転封)、碁石威伊予札萌黄糸威段替丸胴具足、小笠原忠真画像	7	明石市	『新修明石市史 通史編Ⅱ 明石の古代・中世・近世』への掲載	R7. 8. 25
諸工業競 小倉機織之図	1	(株)NHK エデュケーショナルコンテンツ開発制作センター	「日曜美術館～伝統工芸展～」(NHK)での使用	R7. 8. 27

資料名	点数	貸出先	目的	申請日
「豊前企救郡藍嶋沖白洲燈籠堂図」	1	株式会社朝倉書店	『図説 日本の灯台』への掲載	R7. 9. 22
門司家文書 康安 2 年 11 月 日 門司親尚軍忠状(花押画像)、門司家文書 貞治 3 年 3 月 日 門司親尚軍忠状(花押画像)、門司家文書 貞治 4 年 4 月 日 門司親尚軍忠状(花押画像)	3	福岡市博物館	『新修 福岡市史 資料編 中世③』への掲載	R7. 11. 6
「小倉表戦争之図」	1	日本放送協会コンテンツ制作局・第 2 制作センター	「さかのぼり日本史幕末 危機が生んだ挙国一致」、「さかのぼり日本史幕末長州征討・倒幕の胎動」(NHK)の配信での再使用	R7. 12. 17
『弥生の鉄文化とその世界』1977 北九州市立考古博物館、P14、a1-1 板状鉄斧片(曲り田 16 号住居)	1	作家 伊勢谷武	『ヒミコの暗号』(宝島社)への掲載	R7. 12. 26
小笠原忠真画像	1	フリーライター 金指吉則	ウェブサイト「クロスロードふくおか」での使用	R8. 1. 16
西国内海名所一覧(常盤橋部分)、「豊国名所」三官飴部分、古写真(大正時代の福田屋店舗)、小菊饅頭の箱、鶴屋八幡饅頭旧箱	5	株式会社朝日広告社	「一DIGS FIELD 触れる、感じる、深めるー砂糖」への掲載	R8. 2. 19
小笠原忠真画像、碁石威伊予札萌黄威段替丸胴具足、豊臣秀次朱印状、慶長 6 年 10 月荒川勝兵衛尉宛て細川忠興知行宛行状・知行目録、寛永 3 年 6 月 26 日「規矩郡内水町村田方御検地帳」(1 冊)・「規矩郡内水町村畠方御検地帳」(2 冊)、細川六丸(光尚)書状(吉田縫殿助宛て)、小笠原貞宗(開善寺殿)画像、栗色革包萌黄糸威腰取仏丸胴具足、「大坂夏御陣略絵図」、朱漆塗本小札紫糸威丸胴具足、小笠原忠政(忠真)書状(南光坊天海宛て)、紙本着色即非画像、小笠原忠雄寺領寄進状、小笠原忠雄画像、藕糸織仏画(弥陀三尊来迎図、聖衆来迎図、靈山浄土図)、国境石(「従是西筑前國」)、「小倉領藍島略図」、「唐船」打払い図(掛幅装)、「唐船」打払い図(福岡藩の軍船を中心に描かれる)、村田応成筆「豊国名所」のうち東勢溜・中津口・舟茶屋前、錦絵「宮本無三四がんりう島に武勇をあらわす」、小笠原忠基画像、象志、小笠原忠総画像、小笠原忠苗画像、曾根新開絵図、小笠原忠固画像、黒崎宿の図(「遠賀郡往還図」のうち)、小倉城ジオラマ天守、『武家格例式』のうち小笠原大膳大夫の部分、小笠原忠徴画像、「山海愛度図絵 はやく酔をさましたい 豊前小倉篇」、小笠原忠幹画像、奥平昌服書状(小笠原幸松丸宛て)、小笠原忠嘉画像、瓦版「九州小倉合戦図」、島村志津摩所用采配、島村志津摩所用払子、島村志津摩所用陣羽織、『倭漢三才図会』巻七十四摂津、菊御紋指揮旗、「豊前小倉領分捕之図」	47	株式会社現代書館	守友隆著『小倉藩』への掲載	R8. 2. 27

資料名	点数	貸出先	目的	申請日
鷹見神社所蔵絵馬 人形遣い図	1	阿波木偶箱まわし保存会・阿波木偶文化資料館	『人形のムラⅧ』阿波木偶「三番叟まわし」・箱廻しの諸相 2 研究編」への掲載	R8. 2. 27
「豊国名所」のうち二の丸	1	九州朝日放送	「思い出の“桜”総選挙」での使用	R8. 3. 20
小倉碑文拓本	1	NHK 大阪放送局コンテンツセンター第 3 部	「歴史探偵 宮本武蔵 仮題」(NHK) での使用	R8. 3. 23

21. 研究業績

(1) 普及課

1) 普及書など

真鍋 徹. 2025. 「自然を活かしたまちづくり-金武町での実践から学ぶ-」-『日本の中でも類をみない』取り組み. 景観生態学, 50-53.

2) 学会講演など

真鍋 徹・鬼武伸男・梅野 岳. 2025. 北九州市における常緑広葉樹が優勢となった里山林の植生管理手法の検討-皆伐後初期の植物の再生状況. 日本景観生態学会第 35 回大会. 金武町立中央公民館.

3) 外部資金獲得状況

文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金

基盤研究 (C). 里山のすがたを科学的に伝えるための展示手法の開発. 研究代表者: 真鍋 徹. 2022-2025 年度.

(2) 自然史課

1) 論文など (アルファベット順)

Anita, S., Inoue, T., Inoue, A., Eto, K., Hamidy, A., Mori, N., Mori, A. 2025. Morphology and chemical composition of the nuchal glands of Indonesian snakes with a description of a novel type of glands. Journal of Morphology, 286(8), e70071. (査読あり)

浅山典昭・潮上太郎・井上裕太・是枝伶旺・中島 淳・日比野友亮. 2026. 福岡県沿岸および島嶼から得られた海産ミミズハゼ属 9 種. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 24, 4-26. (査読あり)

江頭幸士郎. 2025. 無尾両生類の最近の系統分類学的研究: 特に湧水・伏流水産卵性カエル類について. タクサ 日本動物分類学会誌, 59, 12-18. (査読なし)

Eto, K., Nishikawa, K., Matsui, M., Hossman, M. Y., Rohman, Y. A., Hara, S. 2026. First report on erectile claws in Asian fanged frog *Limnonectes* (Anura: Dicroglossidae). Current Herpetology, 45, pp. 114-118. (査読あり)

福家悠介・竹下文雄・小松浩典. 2025. ミナミテナガエビは小笠原諸島に分布するのか? Cancer, 34, 73-77. (査読あり)

Hibino, Y. 2025. Species diversity of snake eels in Japan (Anguilliformes, Ophichthidae). 2025 Joint Conference of the Asian Society of Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference. Abstract Book, p. 366. (査読あり)

日比野友亮. 2026. 川魚味くらべ. 魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」, (30), 41-50. (査読なし)

- 日比野友亮・遠藤詢介・古庄 誠. 2025. 標準和名アズキウミヘビに適用すべき学名. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 54, 72–74. (査読あり)
- 日比野友亮・平井隆之・川端秀樹・宮崎佑介. 2025. 和歌山県から得られた日本初記録の *Ophichthus tomioi* カマヒレウミヘビ (新称) (ウナギ目ウミヘビ科). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55, 72–75. (査読あり)
- Hibino, M., Nishikawa, K., Matsui, M., Eto, K., Shen, Y., Ahmad, N., Hossman, M. Y., Gumal, M. 2026. Additional specimens and new localities of the Matang caecilian, *Ichthyophis biangularis* (Amphibia, Gymnophiona, Ichthyophiidae), with notes on genetic and geographic diversity and natural history. *Current Herpetology*, 45, pp.1–18. (査読あり)
- 日比野友亮・緒方悠輝也・松重一輝・栗原 巧・是枝伶旺・和田英敏・星野和夫. 2026. 九州におけるカマキリ *Rheopresbe kazika* (スズキ目カジカ科) の分布. 九州大学総合研究博物館研究報告, (23), 79–92. (査読あり)
- 日比野友亮・潮上太郎・望岡典隆. 2026. 九州大学農学部魚類標本の概要. 九州大学総合研究博物館研究報告, (23), 65–77. (査読あり)
- 東山陽次・長井大輔・柵山徹也・森 康. 2025. 島原半島南部新生代後期玄武岩から推定されるマントルの不均質とフィリピン海プレートの寄与. *火山*, 70, 185–201. (査読あり)
- 星野和夫・中尾拓貴・日比野友亮. 2025. 大分県から得られた標本に基づく九州2例目のキリアナゴ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 54, 49–53. (査読あり)
- Mai, Z. Jia, F., Ryndevich, S. K., Angus, R., Minoshima, Y. N., Fikáček, M., and Růžicka, J. 2025. Taxonomic revision and phylogeny of the genus *Peltocercyon* d'Orchymont, 1925 (Coleoptera: Hydrophilidae: Megasternini). *Zootaxa*, 5671, 1–74. (査読あり)
- Matsubara, M., Takeshita, F., Henmi, Y. 2025. Parasite aggregations: Females attract conspecific males to the hosts in the ectoparasitic isopod *Onisocryptus ovalis*. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 588, 152106. (査読あり)
- Matsushige, K., Hibino, Y. 2025. Exploring recent Japanese public perception of freshwater eels of the genus *Anguilla* using content analysis of newspaper coverage. *Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems*. (査読あり)
- Minoshima, Y. N., Sumikawa, T., Watanabe, K., Sôta, K. 2025. First record of a rare male individual of *Neohirasea japonica* (de Haan) (Phasmatodea, Lonchodidae) from Kyushu, Japan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 31(1), 76–79. (査読あり)
- Nakahara, T., Okabe, H., Otsuki, K., Amano, C. T., Nozaki, T., Otsui, K., Yamaguchi, N. M. 2025. Seasonal migration across northwestern Pacific and Indian Oceans in Swinhoe's Storm-petrel *Hydrobates monorhis*. *Bird Conservation International*, 35, e36 1–8. (査読あり)
- Nakahara, T., Nakayama, F., Yamaguchi, N. M. 2025. Japanese Buzzards (*Buteo japonicus*) nesting in a basket on an electricity pylon. *Journal of Raptor Research*, 59 (4), 1–4. (査読あり)
- 中原 亨・岩田 洸・八重田実里. 2025. 壱岐水道の小二神島で発見されたカンムリウミスズメ集団繁殖地の規模. *山階鳥類学雑誌*, 57(2), 97–104. (査読あり)
- 西山忠男・森 康・重野未来・森部陽介・西 右京. 2025. 長崎変成岩西彼杵ユニット中の蛇紋岩メランジュ：超高压変成岩を含む雪浦メランジュとヒスイ輝石岩を産する三重メランジュ. *地質学雑誌*, 131, 189–212. (査読あり)
- Park, D.-M., Han, K.-H., Hibino, Y., Cho, H.-G. 2025. First morphological description of the adult *Scolecenchelys fuscogularis* (Anguilliformes: Ophichthidae) collected from the South Sea, Korea. *Korean Journal of Ichthyology*, 37, 182–186. (査読あり)
- 笹木大地・武藤 滉・中村潤平・日比野友亮・木村清志. 2025. 三重県におけるハタ科魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55, 30–48. (査読あり)
- Sugiura, N., Takeshita, F. 2025. Notes on floral resource utilization in two sympatric earwig species (Dermaptera: Forficulidae). *Entomological Science*, 28(3), e12600. (査読あり)

- 高倉耕一・土田華鈴・松井正文・富永 篤・吉川夏彦・江頭幸士郎・福谷和美・福山伊吹・山本和宏・松原康平・大沼弘一・原壮大朗・西川完途. 2025. 賀茂川におけるオオサンショウウオ類の個体群サイズ推定. 保全生態学研究, 30, pp.139–148. (査読あり)
- 高梨佑真・佐土哲也・日比野友亮・宮本陽介・子安和弘・遠藤広光. 2025. 紀州灘と駿河湾から得られたホラアナゴ科スルガアナゴの追加記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 54, 35–41. (査読あり)
- Takeshita, F., Yasuda, C. I. 2026. Dear enemy phenomenon in fiddler crabs: escalation of fights with unfamiliar individuals rather than familiar neighbours. Animal Behaviour, 233, e123470. (査読あり)
- Tanabe, K., Misaki, A. 2025. Lower jaws of two Late Cretaceous pachydiscid ammonites from Hokkaido, Japan with discussion on taxonomic and paleoecological implications of pachydiscid jaw apparatus. Paleontological Research, 29, 300–315. (査読あり)
- Vo, V. Q., Ho, H.-C., Hibino, Y. 2025. Two new records of worm or spaghetti eel genus *Moringua* (Anguilliformes: Moringuidae) from estuaries and lagoons in Vietnam. Vietnam Journal of Marine Science and Technology, 25, 127–140. (査読あり)

2) 普及書など (アルファベット順)

- 日比野友亮. 2025. ローカルな淡水魚食文化を支える湖魚という存在. 100 年後に読む琵琶湖日記, WEB 連載形式. 能美舎.
- 日比野友亮. 2025. ふくおかの身近な川といきものを知ろう！ハカタスジシマドジョウとチュウガタスジシマドジョウ. 河川情報誌「かわ」, 9–10.
- 日比野友亮. 2025. ふくおかの身近な川といきものを知ろう！ふくおかの「普通種」ヤリタナゴ. 河川情報誌「かわ」, 9–10.
- 日比野友亮. 2025. ウナギ目各科, ナマズ目各科, アカメ科, シマガツオ科, ボラ科. 木村清志・笹木大地 (編) 美し国の魚たち 三重県の魚類, pp. 44–61, 79–81, 198–201, 206, 253–255. 伊勢市.
- 日比野友亮・中島淳. 2025. 観察ケース写真：生きた魚のケース内撮影という文化. 「特集 魚類観察ケース写真の楽しみ方・極め方」. ニッチェ・ライフ, 23–29.
- 日比野友亮・ざんくるす. 2025. 日本産ウミヘビ科魚類図譜. 文彩堂出版.
- 大橋智之. 2025. 恐竜を体感してみよう：いのちのたび博物館の展示. 『子どもと読書』2025 年 9・10 月号特集「恐竜の本と子どもたち～「恐竜」の本のたのしさを～」. 親子読書地域文庫全国連絡会『子どもと読書』.
- 竹下文雄. 2025. ウェービングだけじゃない：ハクセンシオマネキの 2 種類の交尾様式と複数の求愛シグナル. 動物の行動と心の事典. 日本動物行動学会(編)／日本動物心理学会 (編集協力), 192–193. 朝倉書店.

3) 学会講演など (アルファベット順)

- 饗場空璃・黄 文謙・日比野友亮・保田航平・遠藤広光. 2025. 高知県から得られた日本初記録のウツボ科魚類 *Gymnothorax taiwanensis*. 2025 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学.
- 江頭幸士郎. 2025. 湧水・伏流水産卵性カエル類の多様性. 日本動物分類学会第 60 回大会. 国立科学博物館.
- 江頭幸士郎・島田知彦・馬場 碧・西川完途・松井正文. 2025. 交雑を伴う種分化？日本産溪流・伏流水産卵性カエル類の例-. 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園.
- 江頭幸士郎. 2026. 両生類・爬虫類の新たな標本作成法の模索. 九州両生爬虫類研究会 2025 年度大会. 唐津市民交流プラザ.

- 福山伊吹・吉川夏彦・江頭幸士郎・松井正文・富永 篤・福谷和美・松原康平・原壮大朗・西川完途. 2025. オオサンショウウオ交雑個体の SSR マーカーを用いた遺伝子鑑定精度の MIGseq 法による再評価. 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園.
- Hibino, Y. 2025. Species diversity of snake eels in Japan. ASI & IPFC 12. Taipei, Taiwan.
- 日比野友亮・遠藤詢介. 2025. 日本産ウミヘビ科魚類の種多様性. 2025 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学.
- 石田吉明・Numberger-Thuy Lea D.・Thuy Ben・御前明洋・小原正顕・三上智之・藤田敏彦. 2025. 和歌山県二川層（最上部白亜系）から産出したクモヒトデ化石. 第 43 回化石研究会学術大会. 滋賀県立琵琶湖博物館.
- 小巻翔平・小巻望美・小林建介・江頭幸士郎・重田将之介・秋田耕佑・東城幸治・清水厚志. 2025. SNP 解析による岩手県内のトノサマガエル属の分布調査. 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園.
- 小山彰彦・松島宏太・今井隆博・下岡敏士・乾 隆帝・中島 淳・齋藤 稔・日比野友亮・鬼倉徳雄. 2025. 福岡県河口・沿岸域の底生生物相. 2025 年 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同学会. 東北大学.
- 蓑島悠介. 2025. 日本産水生ガムシ科の DNA バーコード領域の解析. 日本甲虫学会第 15 回大会. 倉敷市立自然史博物館・倉敷市立美術館.
- 蓑島悠介・川村康平. 2025. 河川伏流水から発見されたコマルガムシ属幼虫. 日本昆虫学会第 85 回大会. 東京農業大学厚木キャンパス.
- 御前明洋・三宅優佳・前川 匠・小松俊文. 2025. 九州南西部甌島列島の上部白亜系姫浦層群から産出した複数種のスフェノディスクス科アンモノイド. 日本古生物学会第 175 回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター（SS プラザせんだい）.
- 三宅優佳・山下大輔・御前明洋・對比地孝亘・楠橋 直. 2025. 現場の迫力を展示へー甌島の断崖調査と見せる工夫. 日本古生物学会第 175 回例会. シンポジウム「化石産地に近い博物館の研究, 展示と学習プログラムを考える」. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター（SS プラザせんだい）.
- 三宅優佳・堤 之恭・小松俊文・御前明洋. 2025. 鹿児島県甌島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の層序. 日本古生物学会第 175 回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター（SS プラザせんだい）.
- 中原 享・伊関文隆・吉岡俊朗・長井和哉・雀ヶ野孝・大槻恒介・中山文仁・山口典之. 2025. 続・「2 羽どまり」の謎：九州で越冬なわばりを共有するノスリ複数組の遠隔追跡. 日本鳥学会 2025 年度大会. 北海学園大学・北海道大学.
- 中本 敦・中西 希・布目三夫. 2025. 蒜山の半自然草原におけるニホンノウサギの基礎生態調査—捕獲、生息数推定、雪上の足跡追跡. 日本哺乳類学会 2025 年度大会. 酪農学園大学.
- 中西 希・伊澤雅子. 2025. GPS ロガーにより明らかになったイリオモテヤマネコの道路利用. 日本哺乳類学会 2025 年度大会. 酪農学園大学.
- 大橋智之・合田隆久・酒井佑輔. 2025. 福井県大野市に分布する下部白亜系手取層群伊月層から産出した小型鳥盤類恐竜の大腿骨. 日本古生物学会第 175 回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター（SS プラザせんだい）.
- 岡本康汰・福山伊吹・鈴木 大・竹内寛彦・徳田龍弘・谷岡 仁・吉川夏彦・江頭幸士郎・栗田隆気・西川完途・戸田 守. 2025. ミトコンドリアおよび核 DNA 解析に基づくシロマダラの系統地理. 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園.
- 太田泰弘. 2025. 自然に関する知の共有と保存のための中核施設：博物館および博物展示施設について. 日本洞窟学会第 51 回大会（創立 50 周年記念秋吉台大会）.
- 島田知彦・馬場 碧・三田真紀・山田啓太・山田哲也・江頭幸士郎. 2025. 「ネバタゴガエル」の種の境界はどこにおくべきか？ 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園.
- 城川響生・小林快次・大橋智之・チンゾイック・ツクトバートル. 2025. 白亜紀前期のアジア産標本に基づく角竜類の系統解析と分布拡大史の再検討. 日本古生物学会 2025 年年会・総会. 北海道大学.

田畑諒一・三内悠吾・日比野友亮. 2025. MIG-seq を用いたウグイの分子系統地理解析に基づく進化的重要単位の把握. 2025 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学.

多田誠之郎・小松俊文・御前明洋・三宅優佳・山下大輔・石川弘樹・真鍋 真. 2025. 鹿児島県薩摩川内市甕島の上部白亜系姫浦層群より産出したウミガメ類化石. 日本古生物学会第 175 回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター (SS プラザせんだい).

竹下文雄・石原千晶. 2025. 親愛なる敵現象における既知仮説の検証：オキナワハクセンシオマネキは既知と未知の近隣個体を区別する. 2025 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 東北大学新青葉山キャンパス.

竹下文雄. 2025. オキナワハクセンシオマネキのなわばり闘争：既知個体との闘争の強度は未知個体との闘争よりも低下する. 日本動物学会第 96 回大会. ポートメッセなごや.

竹下文雄. 2025. オキナワハクセンシオマネキの 2 つの巣穴内交尾プロセスと他オスによる妨害. 2025 年度日本動物行動学会. 函館アリーナ.

吉川夏彦・松井正文・西川完途・松島野枝・島田知彦・江頭幸士郎・佐藤直樹・富永 篤. 2025. MIG-seq 法によるニホンアカガエルの集団遺伝構造と系統地理. 日本爬虫両棲類学会第 64 回大会. 台北動物園

4) 外部資金獲得状況

文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金

国際共同研究加速基金. 餌毒を再利用するヘビ類の防御器官の多様化：新規生体システムの初期進化過程の探求. 研究分担者：江頭幸士郎 (研究代表者：森 哲). 2023-2026 年度.

学術変革領域研究 (B). 社会があれば知性はあるか：甲殻類・水圏無脊椎動物の社会と認知能力を捉え直す. 研究分担者：竹下文雄 (研究代表者：石原千晶). 2023-2025 年度.

基盤研究 (B). 雑種形成から始まる種分化：日本産両生類を用いた新たな種多様性形成メカニズムの解明. 研究分担者：江頭幸士郎 (研究代表者：西川完途). 2024-2026 年度.

基盤研究 (C). 南アルプスを取り囲む伏流産卵性のカエルに見られる輪状種の集団構造の検証. 研究分担者：江頭幸士郎 (研究代表者：島田知彦). 2025-2027 年度.

基盤研究 (C). カンムリウミスズメの集団繁殖地間移動を考慮した外来捕食者による影響評価. 研究分担者：中原 亨 (研究代表者：山口典之). 2025-2027 年度.

基盤研究 (C). 採餌生態と頭骨・四肢形態比較に基づいたイリオモテヤマネコの小島嶼適応の解明. 研究代表者：中西 希. 2024-2026 年度.

基盤研究 (C). 琉球諸島の哺乳類をモデルとした陸生哺乳類の島嶼適応に関する研究. 研究分担者：中西 希 (研究代表者：林 昭次). 2022-2025 年度.

基盤研究 (C). 半自然草原における人為的な草原管理がニホンノウサギの行動と生息数に与える影響. 研究分担者：中西 希 (研究代表者：中本 敦). 2022-2025 年度.

基盤研究 (C). 沈み込みプレート境界における蛇紋岩の変形と交代作用の連結現象. 研究代表者：森康. 2024-2026 年度.

基盤研究 (C). 雄間競争と雌の配偶者選択の相互作用が織りなすシオマネキ類の性淘汰形質の適応進化. 研究代表者：竹下文雄. 2023-2026 年度.

若手研究. 渡り鳥における越冬地の社会関係を介したキャリアオーバー効果の実証. 研究代表者：中原 亨. 2022-2025 年度.

その他の外部資金

公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 国内研究助成. 琉球列島における水生甲虫の遺伝構造の把握と遺伝的分化パターンの評価. 研究代表者：蓑島悠介. 2025-2026 年度.

公益財団法人中辻創智社 2024 年度研究費助成. DNA 情報に基づく水生ガムシ類の普通種と広域分布種の再検証. 研究代表者：蓑島悠介. 2024-2025 年度.

日比自然史基金. 哺乳類標本作製ボランティア育成のための研修の実施. 研究代表者: 中西 希. 2025-2026 年度.

5) 受賞など

江頭幸士郎. 第 22 回日本動物分類学会 奨励賞 (2025 年 6 月)

(3) 歴史課

1) 論文・著書など (五十音順)

佐藤凌成. 2025. 史料紹介 対馬築城家文書—伝来の考察とあわせて—. 長崎県対馬歴史研究センター所報, 第 5 号. (査読なし)

佐藤凌成. 2026. 十六世紀後半における筑前麻生氏と大名間抗争. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 (歴史), 第 23 号. 北九州市立自然史・歴史博物館. (査読あり)

宮元香織. 2026. 筑前北東部における出土鏡について. 九州島の古墳時代における銅鏡の様相, 第 26 回九州前方後円墳研究会長崎大会発表資料集. 九州前方後円墳研究会. (査読なし)

2) 資料紹介・書評など (五十音順)

宮元香織. 2026. 福岡県立戸畑高等学校寄贈資料について. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 (歴史), 第 23 号. 北九州市立自然史・歴史博物館. (査読あり)

3) 普及書など (五十音順)

富岡優子. 2025. 中将姫にあやかる女性たちと藕糸織. 仏教文学, 第 50 号, pp. 33-35.

4) 学会等講演・報告 (五十音順)

富岡優子. 2025. 日本における藕糸作例とその広がり—福岡県指定文化財『藕糸織仏画』を嚆矢として. 第 112 回九州藝術学会, 北九州市立美術館, 2025 年 6 月 28 日.

日比野利信. 2025. 福岡県の近代史研究と史料. 九州史学研究会歴史資源部会第 4 回研究会. 九州大学西新プラザ. 2025 年 8 月 31 日.

5) 外部資金獲得状況

文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金

基盤研究 (B). 藕糸の総合的研究—藕糸伝承作品の調査と新たな分析方法の開発—. 研究代表者: 富岡優子. 2025-2028 年度.

基盤研究 (B). 法華経美術の中世的拡張—顕・蜜・浄土融合の造形と空間. 研究分担者: 富岡優子 (研究代表者: 山本聡美). 2024-2028 年度.

基盤研究（C）．小倉織の多様化に関する総合的研究．研究代表者：上野晶子．研究分担者：日比野利信．2024-2026 年度．

基盤研究（C）．石炭資源をめぐる政治と都市社会．研究代表者：日比野利信．2023-2025 年度．

基盤研究（C）．日本古代菓子の飲食・供膳様式の解明と菓子再現活用の研究－東アジアの食膳研究その 2－．研究分担者：宮元香織（研究代表者：前川佳代）．2022-2025 年度．

その他の外部資金

公益財団法人カメイ社会教育振興財団 博物館に関する国際交流に対する助成．東アジア友好博物館 子どもを対象とした教育普及プログラム合同研究会実施事業．担当者：上野晶子．2025 年度

22. 博物館刊行物

(1) 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史)

J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>) にてフリーアクセス公開している。

1) 第 24 巻 (令和 8 年 3 月 31 日発行)

Editorial

Masako Izawa—museum executive director general, curator, mammalogist: an overview of her academic and administrative careers. [伊澤雅子—自然史・歴史博物館前館長, 学芸員, 哺乳類学者: 略歴と主な業績] pp. 1–3.

原著論文

浅山典昭・潮上太郎・井上裕太・是枝伶旺・中島 淳・日比野友亮. 福岡県沿岸および島嶼から得られた海産ミミズハゼ属 9 種. [Nine species of marine *Luciogobius* (Gobiidae) from coasts and islands of Fukuoka Prefecture, western Japan] pp. 4–26.

(2) 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類 (歴史)

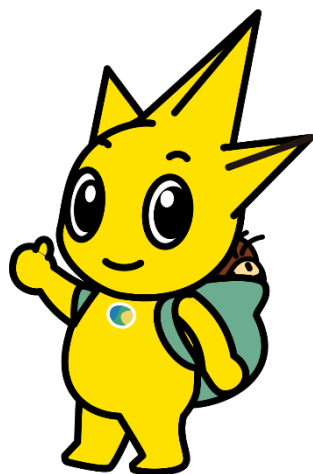
1) 第 23 号 (令和 8 年 3 月 31 日発行)

資料紹介

宮元香織. 福岡県立戸畑高等学校寄贈資料について. pp. 1–11.

論文

佐藤凌成. 十六世紀後半における筑前麻生氏と大名間抗争. pp. 34 (1)–13 (22).



博物館公式キャラクター「いのたん」

年 報

令和 7 年度

令和 8 年 7 月 31 日発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL : 093-681-1011

FAX : 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY

2026 Kitakyushu Museum of Natural History and Human History. All Rights Reserved